



September 2022
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

感染症予防対策についての取り組み

みなさまに安心して演奏をお楽しみいただけるように、以下の感染症予防対策について、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- 会場内では、必ずマスクを正しく常時着用し、手洗い、手指の消毒、咳エチケットにご協力ください。
- 感染予防のため休憩中も含め、客席内ではご自身のお座席以外への着席はご遠慮ください。
- 入退場時および会場内では、まわりの方々と距離を確保した上で行動くださいますよう、ご協力をお願いいたします。また、混雑緩和のために入退場時に、制限をさせていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- プログラムは所定の場所からお客様ご自身でお持ちください。
- 政府や自治体によるイベント開催要件に変更があった場合は、チケット販売の一時停止や入場者数上限の設定等を行います。
- ロビー等では大きな声での歓談はお控えください。
- 「ブラボー」等の掛け声はお控えください。
- サイン会は実施しません。また、楽屋口での出演者の待ち・出待ちはお断りいたします。また出演者への面会やプレゼントもお断りいたします。
- 万が一、ご来場のみなさまの中から新型コロナウイルス感染者が発生した場合には、保健所など公的機関へチケット購入時にいただいたお客様の情報を提供する場合がございます。またその場合、複数枚をご購入いただいた方には、同伴者など、当日ご来場いただいた方の連絡先をお伺いいたします。あらかじめご承知おさください。
- 喫茶コーナーは会場により、営業縮小もしくは休止している場合があります。
- 会場内でのお食事はお控えください。また持ち込みもご遠慮ください。
- クロークは休止しております。
- ブランケット等の貸し出しサービスは休止いたします。必要に応じて、防寒の備えをお勧めいたします。
- 会場内のドアノブや座席の手すりなどはあらかじめ消毒を実施します。
- 会場内の常時換気、開場中および休憩中の客席扉の開放など空気の流れ替えに努めます。
- スタッフもマスクの着用等、ご来場のみなさま同様に感染予防の対策を行います。また、業務の内容により、フェイスシールドやビニール手袋の着用をさせていただきます。
- 厚生労働省による新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)や自治体独自の通知アプリなどの活用を推奨いたします。

お客様へのお願い



公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください



演奏は最後の余韻までお楽しみください



場内での録音、録音、写真撮影は固くお断りいたします(終演時のカーテンコールをのぞく)



私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないように配慮ください



演奏中の入退場はご遠慮ください



補聴器が正しく装着されているかご確認ください



終演時のカーテンコールを撮影していただけます

- コンサート終演時、舞台上のカーテンコールをスマートフォンで撮影していただけます。
- ・撮影の際は、ほかのお客様へご配慮いただき、フラッシュの使用はお控えください
 - ・SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」「#nhkso」の追加をぜひお願いいたします

PHILHARMONY

CONTENTS
SEPTEMBER 2022

9

- 3 **ファビオ・ルイーゼ 首席指揮者に就任**
- 4 **特集 第2000回定期公演 曲目ファン投票**
- 14 [公演プログラム] **Aプログラム**
- 26 [公演プログラム] **Bプログラム**
- 30 [公演プログラム] **Cプログラム**
- 34 [シリーズ] **N響百年史** | 第30回 | 近衛秀麿、逃げそこなう 片山杜秀
-
- 38 2022年10月定期公演のプログラムについて [Artist Profiles & Program Notes]
——公演企画担当者から
- 40 チケットのご案内 56 Program A
- 41 2022-23定期公演プログラム 61 Program B
- 44 特別公演／各地の公演 64 Program C
- 48 特別支援・特別協力・賛助会員 67 The Subscription Concerts Program 2022-23
- 52 NHK交響楽団メンバー 70 役員等・団友
- 53 曲目解説執筆者／Information／お詫びと訂正
- 54 みなさまの声をお聞かせください！
- 55 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

インターネットアンケートに ご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは54ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

Special Thanks




NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

 みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて
©Lukas Beck

Fabio Luisi

ファビオ・ルイー ジ 首席指揮者に就任



© Yasuko Miyoshi (SPT)

2022年9月、ファビオ・ルイー
ジを首席指揮者に迎えたN響の新しいシーズンがついに始まります。

ルイー
ジは「NHK交響楽団 2022-23定期公演 記者
会見」(2022年5月24日)に登壇し、「数々の共演を通じて
音楽上の友情と信頼を育んできた結果、私を首席指揮
者に選んでくれたということに満ち足りた思いです」と就
任の喜びを語りました。また、N響との今後の活動につ
いて、「N響と新たに『伝統』を見つめ直していきたい。
2022-23シーズン定期公演では、R.シュトラウス、ブラー
ムス、ブルックナー、ヴェルディ『レクイエム』などの後期
ロマン派の作品に取り組むことで、N響の伝統をさらに
進化させることになるでしょう」と意気込みを語りました。

ルイー
ジが引き出すN響の新たな魅力を、そして両者
による音楽の美の探究の旅を、存分に楽しむことのでき
る新しいシーズンの開幕です。



記者会見で就任の喜びと今後の抱負を語るファビオ・ルイー
ジ

日程・出演者

2023年12月16日(土)、17日(日)

2023年12月定期公演 Aプログラム

NHKホール

指揮:ファビオ・ルイーゼ(N響首席指揮者)

特集

NHK交響楽団 第2000回 定期公演 曲目ファン投票

1927年2月の第1回以来、

N響の活動の根幹として続けられてきた「定期公演」が、

2023年12月16日、17日の公演

(指揮:ファビオ・ルイーゼ/N響首席指揮者)で

2000回の節目を迎えます。

この記念すべき公演の曲目を、

N響を応援してくださっているファンのみなさまの投票で、

3つの候補曲から選ぶこととなりました。

本特集では、3つの候補曲について、

音楽学者の広瀬大介さんがわかりやすく解説!

ファビオ・ルイーゼからも各曲の聴きどころについての

コメントが寄せられました。

ぜひ投票の参考としてください。



3つの候補曲紹介

フランツ・シュミット [1874-1939] / オラトリオ「7つの封印の書」 [N響初演]

マーラー [1860-1911] / 交響曲 第8番 変ホ長調「千人の交響曲」

シューマン [1810-1856] / オラトリオ「楽園とペリ」 作品50 [N響初演]

フランツ・シュミット (1874-1939)

オラトリオ「7つの封印の書」 [N響初演] <110分>

フランツ・シュミットといえば、2021年11月池袋Aプログラムで披露された《交響曲第2番》の記憶も新しいところ。自身の創作活動の集大成とすべく、死の前年、1938年に初演された本作。聖書に付曲した作品として有名なバッハ《マタイ受難曲》などの向こうを張り、シュミットが選んだのは『ヨハネの黙示録』でした。7つの封印が解かれ、殺戮、飢餓などのあらゆる災害がこの世に起こった末に、天の神を選んだひとたちによる国の栄光を讃える壮大な合唱が響きわたります。 [広瀬大介]



上：フランツ・シュミット

右：アルフレッド・デュラー『黙示録の四騎士』（木版画）
第1から第4の封印が解かれたときに現れる騎士。支配、戦争、
飢饉、死がもたらされる

ファビオ・ルイーダが語る《7つの封印の書》

じつに並はずれた作品です。しかし残念ながらあまり知られていません。フランツ・シュミットは後期ロマン派の語法を用いながらも独創性がとても高い作曲家ですが、この独創性ゆえに演奏される機会が非常に少ないのです。実際このオラトリオはごくまれにしか演奏されません。N響も演奏したことがあり

ませんし、世界中のほとんどのオーケストラも同様です。

テーマは『ヨハネの黙示録』で、洗礼者ヨハネが世界の「黙示」を預言する——つまり世界が終末を迎えるときに何が起きるかを語ります。ヨハネ、そして神を歌手が演じて、『黙示録』のさまざまな場面をドラマティックに描写します。瞑想的なオラトリオではなく、大きな衝動性と巨大な力を備えた、暴力的ですらあるオラトリオです。過去の偉大なオラトリオの数々に匹敵する作品で、20世紀の作品のなかではまちがいなく第一級の作品でしょう。

この作品を今演奏するということは、私たちが直面している問題を違う視点で捉えるひとつの方法だと思のです。私たちはこの数十年間、国家や民族間の紛争を解決する方法を見出したと大きな希望を抱いてきましたが、残念ながらそうした幻想は破られました。人類はいつも同じ過ちを犯します。しかし幸運なことに、私たちに芸術があり、音楽がある。それが私たちを、より良き存在にしてくれるはずです。芸術の役割が重要となった今の時代に演奏することの意義は大きいでしょう。

N響の1000回目の定期公演はサヴァリッシュ指揮によるメンデルスゾーンの《オラトリオ「エアリア」》でした。2000回目の候補となったこのシュミットの《オラトリオ「7つの封印の書」》は、メンデルスゾーンの《エアリア》のように偉大なコーラル・シンフォニー作品だとは、残念ながらまだ認識されていませんが、その資格はあるはずだと思いますよ。

マーラー (1860-1911)

交響曲 第8番 変ホ長調「一千人の交響曲」〈80分〉

1910年に開催された「ミュンヘン博覧会」の目玉企画として作曲された《交響曲第8番》。オーケストラ171人、声楽858人、まさに「一千人」を超える規模で初演され、「マーラーは名声の頂点に立った」と言わしめるほどの爆発的な成功を収めました。第1部・ラテン語の賛歌「来たれ、創造主である聖霊よ」（おもに聖霊降臨祭の際に歌われる）、そして第2部・ゲーテ『ファウスト』の最終場面。「永遠に女性的なるもの」が世界を祝福するフィナーレは圧巻です。

[広瀬大介]



上：グスタフ・マーラー
左：1910年9月、初演に向けてのリハーサル風景（ミュンヘン、新音楽祝祭堂にて）

ファビオ・ルイージが語る《一千人の交響曲》

マーラーの《交響曲第8番》は「一千人の交響曲」として知られています。まさに数多くの演奏家を必要とするからです。マーラーが自身の集大成と捉えた、彼のもっとも重要な交響曲といえるでしょう。彼の時代や作曲様式を考えると、人間の存在を描くために、壮大な交響曲となるのは必然だったのでしょう。そのためにマーラーはきわめて独創的な、当時の作曲の定石からはずれた方法で交響曲を作ったのです。

第1部と第2部の音楽内容は大きく異なります。第1部〈賛歌「来たれ、創造主である聖霊よ」〉では、この賛歌が積み木を組み上げるように展開され、やがて壮大なコーラルにいたります。非常に力強く、密度が高い音楽です。

第2部は、ゲーテの戯曲『ファウスト』の終幕の場面が、マーラーの視点による、ひとつの道程として描かれます。それは苦悩から救済へといたる人間の魂の道程です。戯曲をもとにした歌詞であるために、演劇的で、あたかもオペラのようなようです。まさに舞台の一場面のように、合唱がいて、ソリストたちがいて、この演劇表現の登場人物を演じます。マーラーは人物たちを『ファウスト』での描写から変容させ、別の意味をも担わせます。特殊なテキストを歌詞に用いた、きわめて特殊な作品なのです。

このように本作は、音楽的には非常に複雑な作品です。シェーンベルク《グレの歌》と並んで、当時のもっとも複雑な作品であり、後期ロマン派の支柱となる作品といえるでしょう。

N響は熟達したオーケストラで、この曲の演奏経験も十分にありますが、演奏上の問題はまったくありません。お互いにゆったり構えて作品と向き合えるでしょうから、疑いなくすばらしい演奏になると期待しかありません。

シューマン(1810-1856)

オラトリオ「楽園とペリ」作品50 [N響初演] <100分>



罪を犯して楽園を追放されたペリ。「御心にかなう捧げものを贈れば罪は赦されよう」と説く天使の言葉に従い、ペリはインド、エジプト、シリアを旅して、ついにその罪を赦してもらえる捧げものをみつけ、楽園へと迎え入れられます。1843年に初演された《楽園とペリ》は大成功を収めたといわれ、シューマンの生涯のなかでもっとも輝かしい瞬間であったかもしれません。各種合唱曲は決然と響きつつも優しさを内に抱え、この作曲家の美質をしみじみと伝えてくれます。[広瀬大介]

ローベルト・シューマン

ファビオ・ルイーダが語る《楽園とペリ》

この作品の重要性は、フランツ・シュミットやマーラーの作品のようにその構想にあるというよりは、音楽的な意義深さにあります。シューマンはショパンと並ぶ、詩的で空想力にあふれた作曲家といえるでしょう。また、ピアノ作品がもっとも知られていて、彼自身も生涯ピアニストでした。さまざまなジャンルの音楽を創作しましたが、規模の大きな音楽形式には及び腰で、悪戦苦闘していたふしさえあります。マーラーをはじめ、彼の交響曲を中途半端だとみなす人も少なくありません。私自身は、むしろシューマンの交響曲の語法は非常に個性的で興味深いと思っていますが、そんな彼が、自身の感受性からも、得意とした形式からも、かけ離れた音楽に挑戦したのです。こんな大規模なオラトリオを書くとは思えない作曲家の作品——その意外性こそが重要だと思うのです。

シューマンは、バッハやヘンデルや彼の同時代人であるメンデルスゾーンとはまったく異なるやりかたでこのオラトリオに取り組んでいます。これは壮大でありながら親密なビジョンを持つオラトリオです。まさにシューマンの魂を見せてくれるような作品で、そのことが特に意義深いのです。

オリエントの古い物語をもとにした、異世界へと誘うような壮大なファンタジーが描かれる本作は、魂の救済の物語といえます。ペリの犯した罪が何か——それは彼女が掟を破って自立しようとしたことではないかと私は考えます。その女性の救済というテーマは、今の時代にも興味深いのではないのでしょうか。魂の救済のためには、古代の物語の場合は数々の試練を克服しなければなりません。どんな行動をとるかを決断する大切さを私たちに教えてくれます。

大規模な作品ですし、演奏されることもまれですから、初めて演奏することになるN響にとっても彼らのレパートリーを大いに豊かにしてくれることでしょう。3つの候補曲のなかでもっとも意外性があり、もっとも勇気ある選択になるでしょうね。

ルイーダは投票を呼びかけて、こう話します——

「第1000回定期公演を指揮されたのはサヴァリッシュさんです。私にとってのメンターのような存在であり、音楽家として、そして人間としてもロールモデルのような方であるマエストロ。私がサヴァリッシュさんを継いで第2000回定期公演に取り組めること、そしてN響の歴史に連なることは大変に光栄です」。

「また、お客さまと一緒に何かできるということには大きな意味があります。パンデミック下での無観客のコンサートで私たちがひしひしと感じたのは、聴衆のみなさまがいるからこそ、真の演奏になるということですから」。

「みなさまに投票に参加していただいて、その結果を知る日が待ちどおしいです」。

N響定期公演の第1回が行われたのは1927年2月でした。第1000回を迎えたのが1986年10月。96年の歳月をかけての第2000回を迎えるのが2023年12月16日、17日です。候補曲は第2000回の定期公演を祝うのにふさわしい記念碑的大作ばかりで、どの作品が選ばれたとしても、N響の歴史に深く刻まれる演奏会になることでしょう。

「曲目ファン投票」に参加して、一緒にN響の新たなページをひらきませんか？

投票について

投票方法

どなたでも投票いただけます(1人1回のみ)。

QRコードを読み取るかURLを入力し、N響ホームページの投票ページにアクセスして、ご投票ください。
投票理由やN響へのメッセージもご記入いただけます。ルイージ&N響への熱いメッセージも大歓迎！
ご投票いただいた方には抽選でN響グッズを差し上げます。

郵便でもご投票いただけます。

必要事項(住所、名前、電話番号、メールアドレス[任意]、投票曲目[1つのみ]、メッセージ[任意])をご記入の上、
下記までお送りください。

〒108-0074

東京都港区高輪2-16-49

NHK交響楽団

第2000回定期曲目ファン投票係

ご投票はこちらから

[https://www.nhks.or.jp/
feature/20220610-2.html](https://www.nhks.or.jp/feature/20220610-2.html)



締切

2022年10月31日(月) (郵便投票分は当日消印有効)

【投票上の注意】

※ 投票はおひとり様1回をお願いします。

※ 投票に際していただいたコメントなどは、N響ホームページやN響機関誌『フィルハーモニー』など、当団の媒体でご紹介させていただく場合がございます。

発表

2022年12月 N響ホームページにて(『フィルハーモニー』2023年1月号でもあわせて発表します)

個人情報の使用目的について

※ 今回の投票で収集する個人情報のうち、氏名[ペンネーム可]は当団の媒体でコメントと共に紹介する場合がございます。また、氏名[ペンネーム可]およびメールアドレスは、グッズ当選時に送付先をお伺いさせていただく場合に使用させていただきます。またその他の個人情報(投票内容、年齢、性別など)については、個人が特定されない形で統計的に処理した上で投票結果として発表させていただく場合があります。

※ 投票結果発表後、今回収集した個人情報は合理的な範囲で速やかに破棄します。今回のアンケートで記載いただいた個人情報を第三者に提供する事はございません。

この件についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。
公益財団法人NHK交響楽団 第2000回定期曲目ファン投票係
〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49
TEL: 03-5793-8120



駆けぬける喜び

THE NEW

2

ACTIVE
TOURER

#JOY
MOVES
FAMILY

家族の喜びが、進化する。JOY MOVES FAMILY. New BMW 218i アクティブ ツアラー Exclusiveは447万円から。

New 218i Active Tourer Exclusive	7速DCT 5ドア右ハンドル	4,470,000円	New 218d Active Tourer Exclusive	7速DCT 5ドア右ハンドル	4,760,000円
New 218i Active Tourer M Sport	7速DCT 5ドア右ハンドル	4,470,000円	New 218d Active Tourer M Sport	7速DCT 5ドア右ハンドル	4,760,000円

※表示の価格は、車両本体価格(消費税別)です。※価格および装備の設定等は、在庫車両の生産時期等により異なる場合があります。また、価格帯には受注生産モデルも含まれます。※価格には、税金(消費税を除く)、保険料、登録に伴う諸費用、付属品価格等は含まれません。※リサイクル料金が別途必要となります。※価格は予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。※掲載した写真の車は一部日本仕様と異なります。また、オプション装備を含む場合があります。※使用している写真は印刷物のため、実際の色合いと異なる場合があります。※プロダクトに関する詳細はwww.bmw.co.jp、またはBMW正規ディーラーにてご確認ください。※以上の内容は、予告なく変更、終了する場合がございます。※記載の内容は2022年7月26日現在のものです。【お問い合わせ】BMW カスタマー・インタラクション・センター 0120-269-437 平日9:00am~7:00pm、土日祭9:00am~6:00pm 年中無休。

FOR MORE
INFORMATION



世界をつなぐ、あたらしい空へ。





私と、響き合う。

「ほしい音は、私が表現したいことをかなえてくれる音。」
ヤマハが新しいCFXに込めた設計思想「ユニボディコンセプト」は、
すべてが、ピアニストの想いを実現するためにあります。
ピアノ自身が弾く者の意思を感じているかのように反応し、
演奏者と楽器が一体となって響き合うことで生まれた音が、
コンサートホールの空間を満たしていく。
これこそ、ヤマハが追い求めてきた瞬間に他なりません。
人の心を動かす音は、ピアノだけが奏でるものではなく、
ピアニストとともに作りあげていくものだから。

Yamaha New CFX 誕生。

CFX

Yamaha Concert Grand Piano

ヤマハ New CFX コンサートツアー 2022

2022. 9.29 (木)	札幌	札幌市教育文化会館小ホール
2022.11.15 (火)	仙台	宮城野区文化センターパトナホール
2022.12.15 (木)	福岡	福岡あいれふホール
2022.12.21 (水)	銀座	ヤマハ銀座店 ヤマハホール
2022.12.25 (日)	大阪	ザ・フェニックスホール
2023. 1.21 (土)	広島	広島市南区民文化センターホール



ピアニスト/
若林 顕



詳細はホームページ
をご覧ください

●ヤマハピアノ・電子ピアノ ホームページ <https://jp.yamaha.com/piano/>

●ヤマハピアノのお問い合わせは、お客様コミュニケーションセンター

ピアノご相談窓口 ☎0570-003-808

営業時間：月曜～金曜10:00～17:00 (祝日およびセンター指定休日を除く)

株式会社ヤマハミュージックジャパン



美しい国の、美しい一日がある。



PALACE HOTEL TOKYO

PROGRAM

A

第1962回

NHKホール

9/10 土 6:00pm

9/11 日 2:00pm

指揮	ファビオ・ルイージ
ソプラノ	ヒブラ・ゲルズマール
メゾ・ソプラノ	オレシア・ペトロヴァ
テノール	ルネ・バルベラ
バス	ヨン・グアンチョル
合唱	新国立劇場合唱団(合唱指揮:富平恭平)
コンサートマスター	篠崎史紀

ファビオ・ルイージ首席指揮者就任記念

ヴェルディ

レクイエム [84']

I レクイエムとキリエ

II 怒りの日

1. 怒りの日
2. 不思議なラッパの音
3. 書きしるされた書物は
4. 哀れな私
5. みいつの大王
6. 思い出させたまえ

7. 私は嘆く
8. 判決を受けた、のろわれた者は
9. 涙の日よ

- III 奉献唱
- IV 聖なるかな
- V 神の小羊
- VI 永遠の光を
- VII われを許したまえ

※ この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。
※ 演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは54ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

ファビオ・ルイーダ(指揮)



©SHINJI

1959年、イタリア・ジェノヴァ生まれ。デンマーク国立交響楽団首席指揮者、ダラス交響楽団音楽監督を務める。

これまでにメトロポリタン歌劇場首席指揮者、チューリヒ歌劇場音楽総監督、ウィーン交響楽団首席指揮者、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団および同歌劇場音楽総監督、MDR(中部ドイツ放送)交響楽団芸術監督、スイス・ロマン管弦楽団音楽監督などを歴任。このほか、イタリアのマルティナ・フランカで行われるヴァッレ・ディートリア音楽祭音楽監督も務めている。

また、フィラデルフィア管弦楽団、クリーヴランド管弦楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、ミラノ・スカラ座フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン交響楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、サイトウ・キネン・オーケストラに定期的に客演し、世界の主要オペラハウスにも登場している。

録音には、ヴェルディ、ベッリーニ、シューマン、ベルリオーズ、ラフマニノフ、リムスキー・コルサコフ、マルタン、そしてオーストリア人作曲家フランツ・シュミットなどがある。また、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団とは数々のR. シュトラウスの交響詩を収録しているほか、ブルックナー《交響曲第9番》の解釈は高く評価されている。メトロポリタン歌劇場とのワーグナー《ジークフリート》《神々のたそがれ》の録音ではグラミー賞を受賞した。

N響とは2001年の初登場以来、9度にわたって共演している。2022年9月、N響首席指揮者就任。

ヒブラ・ゲルズマーワ(ソプラノ)

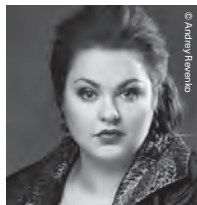


豊かで明るい響き、何よりも優れた表現力を持つヒブラ・ゲルズマーワは黒海東岸を臨むアブハジアの出身。アブハジアの言葉でヒブラは「黄金の目」を意味し、その名の通り多くの聴衆の心をつかんで離さない「黄金の声」の持ち主である。1994年モスクワ音楽院を卒業。同年、チャイコフスキー国際コンクールで史上初、唯一の女性歌手による最優秀賞を受賞。これまでにマリインスキー劇場、英国ロイヤル・オペラ・ハウス、メトロポリタン歌劇場、ウィーン国立歌劇場、バリ・オペラ座をはじめとする世界の主要な歌劇場に出演。2017年にはミラノ・スカラ座、2018年にはドレスデン国立歌劇場にデビューするなど、その活躍はとどまるところを知らない。

2011年にはマリインスキー劇場来日公演に参加、NHKホールで《トゥーランドット》のリューを歌って絶賛を博した。ヴェルディの《レクイエム》は、2021年にヴェローナ野外劇場の舞台で演奏している。今回初共演のN響とはどんな《レクイエム》を聴かせてくれるのか、たいへん楽しみだ。

2011年にはマリインスキー劇場来日公演に参加、NHKホールで《トゥーランドット》のリューを歌って絶賛を博した。ヴェルディの《レクイエム》は、2021年にヴェローナ野外劇場の舞台で演奏している。今回初共演のN響とはどんな《レクイエム》を聴かせてくれるのか、たいへん楽しみだ。

オレシア・ペトロヴァ(メゾ・ソプラノ)

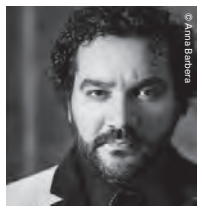


© Andrey Pavlenko

2016年からミハイロフスキー劇場のソリストとして活躍するオレシア・ペトロヴァは、柔らかく、あたたかみのあるメゾ・ソプラノ。同劇場では、《仮面舞踏会》のウルリカ、《カヴァレリア・ルスティカーナ》のサントウツァ、《スペードの女王》の伯爵夫人などを演じている。2014年、《アンドレア・シェニエ》でメトロポリタン歌劇場デビュー。同歌劇場にはその後も出演を重ね、2018年、フェデリカ役で出演したエライジャ・モシンスキー演出の《ルイザ・ミラー》がライブ・ビューイングで上演されたのも記憶に新しい。これまでにチューリヒ歌劇場、ハンブルク国立歌劇場、マドリッド・レアル劇場、リセウ大劇場などに出演。2018年には新制作の《スペードの女王》のポリーナでポリショイ劇場にデビューを飾っている。

ロシア国内でのコンサート出演も数多い。特にモーツァルトの《レクイエム》や《戴冠式ミサ》、ペルゴレージの《スターバト・マーテル》では好評を博してきており、今回ルイーゾとともに贈るヴェルディの《レクイエム》でもその実力が期待される。N響初登場。

ルネ・バルベラ(テノール)



© Anne Barbera

2020年2月、新国立劇場で上演されたロッシーニ《セビリアの理髪師》にアルマヴィーヴァ伯爵として出演したルネ・バルベラ。伸びやかな高音と素晴らしい装飾技巧が大絶賛されたアメリカ出身のテノールである。2008年メトロポリタン歌劇場ナショナル・カウンシル・オーディションで優勝。2011年にはプラシド・ドミンゴが創設したコンクール「オペラリア」で史上初めて、3つの優秀賞を単独で獲得するという快挙を成し遂げた。ロッシーニやドニゼッティのベルカント・オペラを得意としているが、2019年にはバレルモ・マッシモ劇場でモーツァルトの《イドメネオ》のタイトルロールを初めて歌い大好評を博している。このほかにミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場などに次々に出演している、今注目のテノールだ。

ヴェルディの《レクイエム》は、テオドール・クルレンツィス率いるムジカ・エテルナとともにバリ、ブリュッセル、ケルン、ハンブルク、ウィーンをツアーでめぐり演奏。その《レクイエム》のソリストとしてN響に初登場するバルベラの世界が認めた歌声を堪能したい。

ヨン・グァンチョル(バス)



ヨン・グァンチョルは韓国出身のバス歌手。1993年から2004年までベルリン国立歌劇場のアンサンブル・メンバーとして幅広いレパートリーを身につけ、2018年にはベルリンで「宮廷歌手」の称号を与えられる。主要なレパートリーはワーグナーとヴェルディで、2015年にはセバスティアン・ヴァイグレが指揮するN響定期公演に登場し、《トリスタンとイゾルデ》《ニュルンベルクのマイスタージンガー》からの曲を披露した。

2021-22シーズンはベルリン国立歌劇場で《フィデリオ》のロッコを歌ったほか、ウィーン国立歌劇場では《ワルキューレ》のフンディング、パリ・オペラ座《パルシファル》のグルネマンツを歌うなど世界の主要歌劇場で活躍している。

コンサートへの出演も多く、これまでにベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ローマ聖チェチリア国立アカデミー管弦楽団、ミラノ・スカラ座フィルハーモニー管弦楽団、ケルン放送交響楽団（現ケルンWDR交響楽団）などと共演。今回のN響公演は、アジアが生んだ卓越したバス歌手の名演に再び接することのできる貴重な機会といえる。

新国立劇場合唱団(合唱)

1997年10月に開場した新国立劇場専属の合唱団として、1998年4月より活動をスタート。厳正なオーディションによる審査を経て合格したメンバーは、現在、男女合わせて100名を超える。メンバー個人の歌唱力や表現力の高さはもとより、アンサンブルの美しさと迫力は折り紙付きで、新国立劇場で上演される多彩なオペラ作品によって磨き上げられた実力は、多くの出演者、指揮者、演出家から高い評価を受けている。またオペラ公演だけでなく、オーケストラの演奏会への出演も多い。これまでに読売日本交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団など日本国内のオーケストラ、マリス・ヤンソンス指揮ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、サイモン・ラトル指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、フランツ・ウェルザー・メスト指揮クリューヴランド管弦楽団など海外オーケストラとも共演。N響とはこれまでに20回を超える演奏会で共演してきており、相性の良さも抜群である。

[室田尚子／音楽評論家] (ソリスト、合唱プロフィール)

ジュゼッペ・ヴェルディ(1813~1901)の《レクイエム》は、イタリア人にとって特別な作品である。イタリアの国民的作曲家であるヴェルディが、イタリアの国民的作家であるアレッシェンドロ・マンゾーニ(1785~1873)を偲んで作曲した作品だからだ。いわば、イタリアのふたつの魂がひとつになった作品なのである。

今回、イタリアの名匠ファビオ・ルイーダがNHK交響楽団の首席指揮者に就任して最初の演奏会にこの曲を取り上げるのは、まったくもってふさわしいことに思える。ソリストは、世界を股にかけて活躍する実力派ばかり。N響が迎える新しい時代の輝かしい幕開けになることは間違いない。

ヴェルディ

レクイエム

ミラノのサン・マルコ教会は、大聖堂(ドゥオモ)に次いでミラノ第2の大きさを誇る教会である。

1874年5月22日、マルコ教会の縦長の空間はおびただしい数の人によって埋め尽くされていた。教会前の広場には、中に入れなかった人々があふれた。堂内の祭壇の前にはイタリア中からかき集められた100人のオーケストラと120人の合唱、有名な歌手たち、イタリアで最も有名な作曲家であるヴェルディ、そして神父が陣取り、ベンチには市長以下ミラノ各界の有名人と、これからここで行われるヴェルディの新作の初演に立ち会う興奮に包まれた人々でひしめいていた。

しかしそれは「演奏会」ではなかった。1年前に亡くなった作家、アレッシェンドロ・マンゾーニを偲ぶ「ミサ典礼」なのだ。演奏者一同は喪服をつけ、本来教会で歌ってはいけない女性たち(合唱団の女性パート)は、観客から見えないところに配された(ただしソリストは別)。それは作曲者のヴェルディが望んだことだった。オペラとの境目が曖昧だといわれる本作だが、ヴェルディはもちろん典礼で使う「死者のためのミサ曲(レクイエム)」を作曲したのである。

ヴェルディが死者を偲ぶレクイエムの作曲を考えたのは、マンゾーニの死が初めてではない。1868年、彼が「イタリアの栄光」だと表現した大作曲家ロッシーニが亡くなったときも、彼はレクイエムの作曲を考えた。ユニークだったのはその構想で、作曲はイタリアを代表する作曲家たちによる合作、初演はロッシーニと縁の深いポローニャのサン・ペトロニオ教会で、彼の命日に行うというものだった。提案当初は内外から賛同を受けて実行委員会も結成され、作曲を担当する13名も決まるが、大勢の人間が関わり、上演など実際的な問題も山積するプロジェクトのため、理想通りにいくわけもなく、アイデアは

空中分解してしまう。13人の作曲家による《ロッシーニのためのレクイエム》が長い眠りから覚めて初演されたのは、なんと1988年のことだった。

それから5年後。ロッシーニよりはるかに尊敬していたマンゾーニの訃報に接したヴェルディは、単独でレクイエムを作曲し、マンゾーニの1周忌のミサで初演する計画を立てる。終曲〈われを許したまえ(リベラ・メ)〉は、《ロッシーニのためのレクイエム》のために書いたものに手を加えて転用したが、あとは新作だった。彼は「神の栄光のために」「大いなる喜びをもって」作曲に没頭し、1年足らずでこの大作を書き上げた。

ヴェルディの《レクイエム》は、極めて個性的な作品である。宗教作品には欠かせないフーガや対位法が駆使されている一方で、有名な〈怒りの日(ディエス・イレ)〉に象徴されるように、音楽はダイナミックで劇的であり、ソリストたちの声の聴かせどころも多く、オペラティックな側面も強い。第2曲〈怒りの日〉は、レクイエムというジャンル特有の複数の曲からなる長大な部分で、「最後の審判」の情景が描かれるが、ここでは審判の地獄絵の絵画的な描写に加えて、裁きを前に恐れおののき、神に許しを乞う人間の苦悩がストレートに表現されている。ただしピアノシモが頻繁に用いられるなど繊細な表現も多いことは付け加えておきたい。このようなコントラストもヴェルディの得意とするところ。第6曲〈永遠の光を〉に聴かれる光を思わせるピッコロなど、色彩豊かなオーケストレーションも聴きものだ。

第2曲中最後の〈涙の日よ(ラクリモーザ)〉の主題は、1867年に初演されたオペラ《ドン・カルロス》のために書かれて初演直前にカットされた二重唱からの転用であり、オペラそのもの。このような世俗的な特徴はカトリック教会の批判の対象となり、20世紀の初めには典礼から締め出されてしまった。

だが「聖なる」音楽が世俗的な面を持つのはなにもヴェルディに始まったことではない。ヨハン・セバスティアン・バッハの《マタイ受難曲》も、苦悩するイエスの姿が鮮やかに描かれた極めて人間的な音楽であり、当時はやはり「劇場的」だと評された。だが現在まで続く《マタイ》の人気の一因がそこにあることは否定できない。ヴェルディの《レクイエム》もまた、イタリア人に限らず、危機のときの勝負曲として世界中で愛されており、それは彼ならではの世俗的な表現も大きな理由だろう(ミラノのスカラ座も、ニューヨークのメトロポリタン歌劇場も、パンデミック後の再開第一弾のプログラムは本作だった)。

心を揺さぶるやり方は作曲家によって異なる。ヴェルディの《レクイエム》は、やはり彼にしか書けない「レクイエム」なのである。

作曲年代	1873年6月～1874年4月
初演	1874年5月22日、サン・マルコ教会にて
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット4、ホルン4、トランペット4、トロンボーン3、チンバッサ1、ティンパニ1、大太鼓、弦楽、合唱、バンダ:トランペット4、ソプラノ・ソロ、メゾ・ソプラノ・ソロ、テノール・ソロ、バス・ソロ

ヴェルディ レクイエム

歌詞対訳

訳◎今谷和徳

10 & 11. SEPT. 2022

I. REQUIEM ET KYRIE

Chorus

Requiem aeternam dona eis, Domine:
et lux perpetua luceat eis.
Tè decet hymnus, Deus, in Sion,
et tibi reddetur votum in Jerusalem:
exaudi orationem meam,
ad te omnis caro veniet.

Soloists, Chorus

Kyrie eleison,
Christe eleison,
Kyrie eleison.

II. DIES IRAE

1. DIES IRAE

Chorus

Dies irae, dies illa
solvat saeculum in favilla,
teste David cum Sibylla.

Quantus tremor est futurus,
quando iudex est venturus,
cuncta stricte discussurus!

I. レクイエムとキリエ

合唱

主よ、永遠の安息を彼らに与え、
たえざる光を彼らの上に照らしたまえ。
神よ、御身に賛歌をささぐるはシオンがふさわし、
エルサレムにて、御身に誓いは果たさる。
わが祈りききたまえ、
すべての肉体は御身に來らん。

独唱四重唱、合唱

主よ、あわれみたまえ、
キリストよ、あわれみたまえ、
主よ、あわれみたまえ。

II. 怒りの日

1. 怒りの日

合唱

怒りの日、その日こそ
ダヴィドとシビラの予言のごとく
この世は灰に帰さん。

すべてを厳しくたざさんと
審判者が来たもう時、
いかに恐ろしきものならん。

2. TUBA MIRUM

Chorus

Tuba mirum spargens sonum
per sepulchra regionum,
coget omnes ante thronum.

Bass

Mors stupebit et natura
cum resurget creatura,
judicanti responsura.

3. LIBER SCRIPTUS

Mezzo soprano

Liber scriptus proferetur,
in quo totum continetur,
unde mundus iudicetur.

Judex ergo cum sedebit,
quidquid latet apparebit,
nil inultum remanebit.

Chorus

Dies irae, dies illa
solvet saeculum in favilla,
teste David cum Sibylla.

4. QUID SUM MISER

Soprano, Mezzo soprano, Tenor

Quid sum miser tunc dicturus,
quem patronum rogaturus,
cum vix justus sit securus?

2. 不思議なラッパの音

合唱

全土の墓に
不思議なる響きを振りまくラッパが
すべての者を玉座の前に集めん。

バス

審判者に答えんと
造られしものがよみがえる時、
死と自然とは驚かん。

3. 書きしるされた書物は

メゾ・ソプラノ

すべてを書き記したる書物が
この世を裁かんとて
差し出されん。

かくて審判者が坐したもう時
隠れたるものはすべてあらわれ、
裁かざるものなからん。

合唱

怒りの日、その日こそ
ダヴィドとシビラの予言のごとく
この世は灰に帰さん。

4. 哀れな私

ソプラノ、メゾ・ソプラノ、テノール

その時、哀れなるわれは何を言わん、
正しき者さえ安らかならざるに
いかなる保護者をたのまん。

5. REX TREMENDAE

Chorus, Soloists

Rex tremendae majestatis,
qui salvandos salvas gratis,
salva me, fons pietatis.

6. RECORDARE

Soprano, Mezzo soprano

Recordare, Jesu pie,
quod sum causa tuae viae,
ne me perdas illa die.

Quaerens me, sedisti lassus,
redemisti crucem passus:
tantus labor non sit cassus.

Iuste iudex ultionis,
donum fac remissionis
ante diem rationis.

7. INGEMISCO

Tenor

Ingemisco tamquam reus:
culpa rubet vultus meus:
supplicanti parce, Deus.

Qui Mariam absolvisti,
et latronem exaudisti,
mihi quoque spem dedisti.

Preces meae non sunt dignae,
sed tu bonus fac benigne,
ne perenni cremer igne.

Inter oves locum praesta,
et ab haedis me sequestra,
statuens in parte dextra.

5. みいつの大王

合唱、独唱四重唱

御恵みもて救わるべきものを救いたもう
おそるべき力もてる王よ、
仁慈の泉よ、われを救いたまえ。

6. 思い出させたまえ

ソプラノ、メゾ・ソプラノ

慈悲深きイエスよ、心にとめたまえ、
御身わがために来たまえることを、
その日、われを滅ぼしたもうことなかれ。

御身われを求めて疲れて坐し、
十字架を受けてあがないたまいぬ。
かかる辛苦を無にしたもうことなかれ。

正しく罰したもう審判者よ、
評価を下す日の前に
赦しの御恵みを与えたまえ。

7. 私は嘆く

テノール

われ罪人として嘆き、
わが顔罪によりて赤らむ。
神よ、嘆願し奉るわれを惜しみたまえ。

マグダラのマリアを解き放ち、
盗賊の願いを聞きいれたまいし御身は
われにも希望を与えたまいぬ。

わが懇願は価値なきものなれど、
慈悲深き御身、御恵みもて
われらが永遠なる火にて、焼かるることなきよう
なしたまえ。

羊の群れにわれを置き、
牡山羊より引き離し、
御身が右に置きたまえ。

8. CONFUTATIS

Bass

Confutatis maledictis,
flammis acribus addictis,
voca me cum benedictis.

Oro supplex et acclinis,
cor contritum quasi cinis,
gere curam mei finis.

Chorus

Dies irae, dies illa
solvet saeculum in favilla,
teste David cum Sibylla.

9. LACRIMOSA

Soloists, Chorus

Lacrimosa dies illa,
qua resurget ex favilla,
judicandus homo reus.

Huic ergo parce, Deus.
Pie Jesu, Domine,
dona eis requiem. Amen.

III. OFFERTORIO

Soloists

Domine Jesu Christe, Rex gloriae,
libera animas omnium fidelium
defunctorum de poenis inferni,
et de profundo lacu:
libera eas de ore leonis,
ne absorbeat eas tartarus,
ne cadant in obscurum:
sed signifer sanctus Michael
repraesentet eas in lucem sanctam.

8. 判決を受けた、のろわれた者は

バス

呪われしもの罰せられ
烈しき火の中におとさる時、
祝福されしものとともにわれを呼びたまえ。

われ、灰のごとく砕かれし心にて
ひざまずき、伏して懇願し奉る、
わが終わりの時に心を配りたまえ。

合唱

怒りの日、その日こそ
ダヴィドとシビラの予言のごとく
この世は灰に帰さん。

9. 涙の日よ

独唱四重唱、合唱

罪ある人が裁かるため
灰よりよみがえるその日こそ
涙の日なり。

されば神よ、彼を惜しみたまえ。
主よ、慈悲深きイエスよ、
永遠の安息を彼らに与えたまえ。アーメン。

III. 奉献唱

独唱四重唱

主イエス・キリスト、栄光の王よ、
すべての死せる信者の靈魂を、
よみの刑罰、
深き淵より救いたまえ。
獅子の口より彼らを救い
彼らが地獄にのみこまれず、
暗黒に落ちこまぬよう、
旗手聖ミカエルが彼らを
清き光明に導かれんことを。

Quam olim Abrahae promisisti,
et semini ejus.

Hostias et preces tibi, Domine,
laudis offerimus:

tu suscipe pro animabus illis,
quarum hodie memoriam facimus.

Fac eas, Domine, de morte transire ad vitam.

Quam olim Abrahae promisisti,
et semini ejus.

Libera animas omnium fidelium
defunctorum de poenis inferni:
fac eas de morte transire ad vitam.

かつて御身がアブラハムと
その子孫に約したまいし生命に。

主よ、われらにけにえと賛美の祈りとを
御身にささぐ。

今日われらの記念する靈魂のために
それを受けいれたまえ。

主よ、彼らを死より生へと移したまえ。

かつて御身がアブラハムと
その子孫に約したまいし生命に。

すべての死せる信者の靈魂を、
よみの刑罰より救いたまえ。
彼らを死より生へと移したまえ。

IV. SANCTUS

Chorus I, II

Sanctus, sanctus, sanctus,
Dominus Deus Sabaoth!
Pleni sunt coeli
et terra gloria tua.
Hosanna in excelsis.
Benedictus qui venit
in nomine Domini.
Hosanna in excelsis.

IV. 聖なるかな

合唱 I、II

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな
万軍の神なる主よ。
主の栄光は
天地にみつ。
天のいと高きところにホザンナ。
ほむべきかな、
主のみ名によりて来る者。
天のいと高きところにホザンナ。

V. AGNUS DEI

Soprano, Mezzo soprano, Chorus

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
dona eis requiem;
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
dona eis requiem sempiternam.

V. 神の小羊

ソプラノ、メゾ・ソプラノ、合唱

神の小羊、世の罪を除きたもう主よ、
彼らに安息を与えたまえ。
神の小羊、世の罪を除きたもう主よ、
永遠の安息を与えたまえ。

VI. LUX AETERNA

Mezzo soprano, Tenor, Bass

Lux aeterna luceat eis, Domine,
cum sanctis tuis in aeternum,
quia pius es.

Requiem aeternam dona eis, Domine:
et lux perpetua luceat eis.

Cum sanctis tuis in aeternum,
quia pius es.

VI. 永遠の光を

メゾ・ソプラノ、テノール、バス

主よ、永遠の光を彼らの上に照らしたまえ、
永遠に御身の聖人らとともに、
御身慈悲深きゆえに。

主よ、永遠の安息を彼らに与え、
たえざる光を彼らの上に照らしたまえ。
永遠に御身の聖人らとともに、
御身慈悲深きゆえに。

VII. LIBERA ME

Soprano, Chorus

Libera me, Domine, de morte aeterna,
in die illa tremenda:
quando coeli movendi sunt et terra;
dum veneris judicare saeculum per ignem.

Tremens factus sum ego et timeo,
dum discussio venerit atque ventura ira,
quando coeli movendi sunt et terra.

Dies irae, dies illa,
calamitatis et miseriae,
dies magna et amara valde.
Dum veneris judicare saeculum per ignem.

Requiem aeternam dona eis, Domine,
et lux perpetua luceat eis.

Libera me, Domine, de morte aeterna,
in die illa tremenda:
quando coeli movendi sunt et terra.
Dum veneris judicare saeculum per ignem.
Libera me.

VII. われを許したまえ

ソプラノ、合唱

主よ、この恐るべき日に
われを永遠の死より解き放ちたまえ。
この日、天と地はゆれ動き、
御身火によりてこの世を裁くために来りたまわん。

われは震えをなし、審判の下る時、
また来るべき怒りに恐れおののく、
この日、天と地はゆれ動く。

この日は、怒りの日、
惨禍と悲惨の日、
まことに辛き大いなる日なり。
御身火によりてこの世を裁くために来りたまわん。

主よ、永遠の安息を彼らに与え、
たえざる光を彼らの上に照らしたまえ。

主よ、この恐るべき日に
われを永遠の死より解き放ちたまえ。
この日、天と地はゆれ動く。
御身火によりてこの世を裁くために来りたまわん。
われを解き放ちたまえ。

PROGRAM

B

第1964回

サントリーホール

9/21 水 7:00pm

9/22 木 7:00pm

指揮 ファビオ・ルイージ | プロフィールはp. 15

ヴァイオリン ジェームズ・エーネス

コンサートマスター 篠崎史紀

ファビオ・ルイージ首席指揮者就任記念

ベートーヴェン

ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61
[42']

I アレグロ・マ・ノン・トロポ

II ラルゲット

III ロンド:アレグロ

— 休憩 (20分) —

ブラームス

交響曲 第2番 二長調 作品73[47']

I アレグロ・ノン・トロポ

II アダージョ・ノン・トロポ

III アレグレット・グラチオーソ(クワジ・アンダンティーノ)

IV アレグロ・コン・スピリト

※ 演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは54ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhks.o.or.jp/enquete.html>

ジェームズ・エーネス (ヴァイオリン)



カナダ中部マニトバ州のブランドンで生まれる。5歳でヴァイオリンを始め、9歳からカナダの著名なヴァイオリニスト、フランシス・チャプリンに師事。13歳でモントリオール交響楽団と共演。ジュリアード音楽院で学び、その後、国際的に活躍。最近では、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン交響楽団、サンフランシスコ交響楽団などのオーケストラと共演している。室内楽では、2010年にエーネス四重奏団を結成。シアトル室内楽協会の芸術監督も務めている。ディスクでは、バッハから現代アメリカのカーニスまで幅広く録音し、アンドルー・アームストロングとベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ全集の録音を完結させた。使用楽器は1715年製ストラディヴァリウス「マルシック」。

NHK交響楽団とは、1998年以後、2000年、2002年、2004年、2006年、2015年と共演を重ねている。今回は、2002年にパーヴォ・ヤルヴィが指揮を執ったベートーヴェンの《ヴァイオリン協奏曲》の再演。早くから才能を開花させたエーネスが壮年期を迎え、どのような演奏を聴かせてくれるのか楽しみである。

[山田治生 / 音楽評論家]

Program Notes | 堀 朋平

満面の詩神のほほえみを、作曲家はときどき真正面から浴びるのかもしれない。おもいきり張りつめていた力がふっと抜けて、黄金の筆が走りだすのだ。長いキャリアのおよそ3合目ほどで、ふたりの「B」はそんな幸福にめぐまれた。楽器たちがもっとも朗らかに響く「ニ長調」で流れだした詩情が、楽章すべてに浸透し、しかもバランス感覚を失わない——。じつに多幸的なカップリングをお楽しみいただく。

ベートーヴェン

ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61

モーツァルトが他界した翌1792年、西ドイツの小都市ボンから、20倍の人口がひしめく楽都ウィーンに移り住んだルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン(1770~1827)は、めきめき頭角を現す。その後の10年ほどで、もう3つの交響曲と3つのピアノ協奏曲を鳴り響かせていた。だからもし1803年に33歳で早世していたとしても、この人は革命的な作曲家として名を残していたはずだ。

ところが、つづく4年間では新スタイルが矢つぎばやに開拓される。《序曲「コロラン」》や《ラズモフスキー弦楽四重奏曲集》で、シリアスな悲劇思想と凝集力を研ぎすませただけではない。《歌劇「フィデリオ」》に歌われる清らかな世界へのあこがれ、《ピアノ協奏曲第4番》に流れた詩情…… てだれの画家が、大きなパレットから魅惑的な色彩をどんどん作ってみせるような創造力だった。

そんなみずみずしい詩情と構成力が幸福にとけあう作品、それが《ヴァイオリン協奏曲》である。とかく「ソロ vs. 管弦楽」の対比にかたむきがちな——前年の《三重協奏曲》にもみられる——硬さは姿を消し、交響曲のごとき堅牢さのうちに伸びやかな楽想がいくつも詰まっている。ユーモアも欠けていない。「クレメントのための、お情けの協奏曲（Concerto par Clemenza pour Clement）」と自筆譜にはある。初演ぎりぎりに仕上げられた楽譜を、当時の売れっ子ヴァイオリン奏者フランツ・クレメント（1780～1842）が披露した。その2年後には、大きく手直した版が出版された。ベートーヴェン自身によるピアノ協奏曲バージョンもよく知られる。

第1楽章 ティンパニの連打による斬新なモットーにつつまれて、6つものテーマがゆっくりと舞いあがって融合していく。《フィデリオ》で歌われる「よりよき世界」の3音動機（ラソミ）も、いたるところに浸みわたる。

第2楽章 弦楽のテーマにもとづく変奏曲。独奏ヴァイオリンの即興的な装飾が美しい。

第3楽章 冒頭楽章から派生したテーマに挟まれて、対照的なメロディたちが華麗に舞う。ときおり流れる短調のふしも、先行する2つの楽章を回想させずにいない。これほど自然に3つの楽章がならぶ協奏曲は、じつにまれである。

作曲年代	1806年11月下旬～12月23日
初演	1806年12月23日ウィーン、フランツ・クレメント独奏
楽器編成	フルート1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽、ヴァイオリン・ソロ

ブラームス

交響曲 第2番 二長調 作品73

「ベートーヴェンの協奏曲は、現代的ではあるけどそれほど重要じゃないね…… モーツァルトやパッサに比べると不協和音が弱いんだ」——気のおけぬ友人には強気なことを語ったようだが、まさにこの巨人を継承すべく、《交響曲第1番》の完成に20年近くが費されたのはまぎれもない事実である。

その《第1番》初演をようやくなしとげた翌1877年から毎夏、ヨハネス・ブラームス（1833～1897）はペルチャッハという地に足をはこぶようになる。南オーストリアはヴェル

ター湖のほとりに広がる山岳地である。古ドイツ語の「半島＝ヴェルト」に由来する名のとおり、広大な湖に島々がうかぶこの保養地は、世紀なかばに開通した鉄道のおかげでヨーロッパ各地から人を集めていた。「お金のことは少しも分からないし関心もないよ」……人もうらやむ言葉がこの年に記されている。作曲でゆたかな財を築くことのできた独り身の44歳が、余暇のために散財をおしむはずもなかった。

こうして、風光明媚^{めいび}の地で《第2番》の筆は進む。「旋律がたくさん飛び交っているので、踏みつぶさないように気をつけなくてはなりませんね」。親しい批評家ハンスリックにそう書き送ったように、晩成の作曲家はようやく激情をはなれ、歌に満たされるようになった。「ブラームスの田園交響曲」とよばれるゆえんでもある。

しかし美しい湖水には魔もひそむ。はやくも冒頭まもなく、金管(トロンボーン+チューバ)がつくりだす不協和音とティンパニの不吉な鼓動に耳をすませよう。4つの交響曲のうちでチューバが活躍するのは本作だけである。とくに第1楽章のおしまいに忍び込む「憂鬱^{ゆううつ}」は「官能的で美しい(wollüstig-schön)響きであって、ごく論理的に出てくるものなのです」——ある指揮者に応じてブラームスはそう書いている(1879年夏)。晴朗と憂愁の移りかわりこそ、この音楽の最大の魅力にほかなるまい。

第1楽章が始まって3分ほど、ヴィオラ+チェロ——ブラームスのとりわけ愛した楽器——が奏でる歌が、ふいに別次元をひらく。子守歌のようなこの第2主題を浮かび上がらせるために活用されたのが、敬愛するシューベルトのスタイルである。ひたすら目的地へとむかうベートーヴェン的なエネルギーをゆるめて、異界へと人をいざなうロマン的な戦略だ。

第2楽章では、ふたたび冒頭のチューバによって深い翳^{かげ}りがひろがる。和声法もきわめてモダン。どの楽章から書きだされたのか定かでないが、無意識の淵に触れるようなアダージョの憂愁こそ、ブラームスの原風景だったのかもしれない。いっぽうで第3楽章はバロック音楽のようにあっさりした構成。“新しさ”に“古さ”を対比させているのだ。第4楽章では、意表を突く進行をたたみかけて緊張感を高めてゆくラストが圧巻。

作曲年代	1877年6月着手、10月半ば完成
初演	1877年12月30日ハンス・リヒター指揮。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、弦楽

PROGRAM

C

第1963回

NHKホール

9/16 金 7:30pm

9/17 土 2:00pm

指揮 ファビオ・ルイーシ | プロフィールは p. 15

オーボエ エヴァ・スタイナー

コンサートマスター 郷古 廉

[開演前の室内楽(Cプログラム限定)]

16日(金)6:45pm~/17日(土)1:15pm~

チェロ:辻本 玲、市 寛也、中 実穂、渡邊 方子

ジョゼフ・ジョンゲン/4本のチェロのための2つの小品 作品89―「伝説」「踊り」

※演奏はご自身の座席でお楽しみください。

※演奏中の客席への出入りは自由です。

ファビオ・ルイーシ首席指揮者就任記念

R. シュトラウス

交響詩「ドン・ファン」作品20[17']

R. シュトラウス

オーボエ協奏曲 二長調[25']

I アレグロ・モデラート

II アンダンテ

III ヴィヴァーチェーアレグロ

R. シュトラウス

歌劇「ばらの騎士」組曲[22']

※この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは54ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhksso.or.jp/enquete.html>

エヴァ・スタイナー (オーボエ)



エヴァ・スタイナーは1993年生まれのデンマークの若手オーボエ奏者である。9歳の時にコペンハーゲン音楽学校でオーボエを学び始め、15歳からはザクト・アンネ・ギムナジウムでデンマーク王立管弦楽団のソロ・オーボエ奏者ヨアキム・ダム・トムセンに師事した。17歳からはデンマーク王立音楽院に学び、2009年にはベルリンスケ音楽コンクールで金メダルを受賞している。またエーレスンド・ソリスト・コンクールでは第2位を獲得した。2013年に南ユトランド交響楽団のオーボエ奏者となり、2014年にはデンマーク放送交響楽団の首席オーボエ奏者に就任、今日に至るまでこのポストにあり、同団の音楽監督ファビオ・ルイーゼのもとで演奏している。ソロや室内楽などでも活発に活動しており、フルートのマリア・スタイナーとの姉妹デュオもよく知られている。N響初登場となる今回、彼女が披露するのはR. シュトラウスの《オーボエ協奏曲》。シュトラウス晩年の心境を綴ったような味わいのあるこの曲を、気心の知れたルイーゼとの共演で彼女がどう表現してくれるのか楽しみである。

[寺西基之／音楽評論家]

Program Notes | 広瀬大介

85年という長い生涯を歩んだリヒャルト・シュトラウス(1864~1949)。父親の影響のもとに絶対音楽(器楽曲)を手がけ、やがて交響詩・オペラといった標題音楽の世界へと足を踏み入れたのち、最晩年にふたたび器楽曲の世界へと戻ってきた。短いモチーフから楽曲全体を組み立てる作曲家の技法はどの作品、どの時代にも共通し、職人としての腕の確かさは一貫して衰えることがなかった。若年、壮年、晩年、それぞれの代表作から、シュトラウスならではの作曲技法の^ま冴えを感じ取れるだろう。

R. シュトラウス

交響詩「ドン・ファン」作品20

若き日のシュトラウスは、1885年6月、フランクフルトで指揮者ハンス・フォン・ビューローと、パウル・ハイゼの戯曲《ドン・ファンの最期》を観劇した、という記録がある。1888年初頭から、このプレイボーイを題材にとった新しい管弦楽作品の作曲が進められた。1889年11月11日、《ドン・ファン》と題された新作は、ワイマール宮廷劇場管弦楽団にて、作曲家自身の指揮によって初演された。

もともと、シュトラウスが総譜の冒頭に掲げたニコラウス・レーナウの叙事詩『ドン・ジュ

アン』からの3か所の引用には、具体的な物語は含まれておらず、それは単に主人公の人生哲学に過ぎない。だが、音楽には精力的な主人公の描写に続き、女性との愛の場面(2か所)、仮面舞踏会の場面、決闘で剣を投げ棄て、胸への一突きで死を受け容れるといった標題的な場面も描かれている。

シュトラウスはレーナウの引用から、実際のドン・フアンの死を表す詩句を2行分削っている。音楽で描かれるドラマ的な具体的内容を詩と結びつけることを、^あ敢えて回避したのだろう。ドン・フアンのテーマにホ長調(ハ長調)、愛のテーマにロ長調(嬰ハ長調)、エピソード的に差し挟まれるト長調/ト短調、死を描くホ短調、という調関係の枠組みが先に作られ、その枠組みのなかでソナタ形式に従って推進していく音楽は、標題にとられぬ、器乐的に自立した新しい交響詩の在り方を示している。

作曲年代	1888年初頭~9月30日
初演	1889年11月11日、ワイマル宮廷劇場管弦楽団、作曲家自身の指揮
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、トライアングル、シンバル、サスペンデッド・シンバル、グロッケンシュピール、ハープ1、弦楽

R. シュトラウス

オーボエ協奏曲 二長調

シュトラウスが第2次世界大戦期に作曲した《ホルン協奏曲第2番》(1942)、《変容》(1945)、そして《オーボエ協奏曲》には、戦争と人道的犯罪への抵抗を示しつつ、同時に新たな時代を志向した作曲家の精神が息づいている。終戦後の1945年7月6日、シュトラウス邸を訪れた米軍兵士でオーボエ奏者のジョン・ド・ランシーによるオーボエ作品の作曲の勧めには、はっきり「否」と応えたシュトラウスではあったが、その3か月後には前言を^{ひるがえ}翻し、協奏曲の作曲を短期間で終わらせる。作曲家はアメリカでの初演権をド・ランシーに与えようとしたが、所属するフィラデルフィア管弦楽団では第2奏者だったため、ド・ランシー自身が本作を演奏できたのは30年以上も後のことだった。

ごく短い伴奏音型が2度繰り返されたあとに突然始まるオーボエの独奏、という第1楽章の始まり方、そのオーボエに絡むヴィオラ独奏の扱いなどに、晩年のシュトラウスらしい^{かたつ}闊達な筆さばきがあらわれる。このあとに続く主要主題が全楽章にわたってさまざまに変容して全体を統一する。第1ヴァイオリンに続いてオーボエ独奏が奏する中間部の主題のひとつが《変容》で用いられた主題に似ているのは、決して偶然ではないだろう(その後も登場)。休みを挟まずにそのまま移行する第2楽章冒頭も第1楽章冒頭の伴奏音型に導かれて始まる。第3楽章のカデンツァ後から、テンポはヴィヴァーチェからアレグロへと徐々に穏やかに。闇から^{やみ}光明へと流れるような、しなやかな音楽によって、シュ

トラウスは次世代への希望の灯をつないだ。

作曲年代	1945年10月
初演	1946年2月26日、チューリヒにて、マルセル・サイエ独奏、folkマー・アンドレーエ指揮、チューリヒ・トーンハレ管弦楽団
楽器編成	フルート2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、弦楽、オーボエ・ソロ

R. シュトラウス

歌劇「ばらの騎士」組曲

20世紀に作られたオペラのなかでも、おそらく最高の人気と上演回数を誇るであろうシュトラウスの《ばらの騎士》。物語の舞台は18世紀のウィーン。陸軍元帥であるウェルデンベルク侯爵の夫人は、若い愛人のオクタヴィアンと情熱的な愛の一夜を明かす。そこへ、田舎からやってきたオックス男爵が登場し、商人の娘ゾフィーと婚約するために（そしてその財産を手に入れるために）、ウィーンへやってきたと告げる。オクタヴィアンは婚約の誓いである「銀のばら」を届ける「ばらの騎士」の役を担うこととなるが、当のゾフィーに一目惚れ。元帥夫人は、若い2人の前途を祝して2人を結びつけ、自らの恋にも幕を引く。第1幕最後の元帥夫人の別れの決断、そして第3幕最後の女声三重唱により、これまでどれだけ多くの観客の紅涙が絞られたことだろう。

1911年の初演直後から、オペラの聴きどころを集めたオーケストラ組曲がさまざまに編曲され、シュトラウス自身も2種類のワルツ・メドレーを編曲した。また、1925年には映画伴奏音楽まで手がけている。今日もっぱら演奏されるのは、1945年に出版された、これらとは別の「組曲」だが、どのような資料をみても、それがシュトラウス自身の編曲なのかははっきり明示されていない。この編曲はポーランドの指揮者アルトゥール・ロジンスキによって、1933～1945年の間に、亡命先のロンドンでなされたもの「らしい」とされている。さらに、本作の総譜の筆跡により、編曲作業がシュトラウスではない他の誰かによって手がけられたことは確定的となった。実際の筋書きにほぼ沿った順番で音楽が並べられていることで曲全体の見通しがはっきりし、数ある組曲のなかでも本作がはるかに多い演奏回数を誇るまでに至った理由のひとつであろう。

作曲年代	[オペラ]1910年 [組曲(1945年)]1933～1945年編曲?
初演	[オペラ]1911年 [組曲(1945年)]ウィーン(コンツェルトハウス)、1946年9月28日。ハンス・スワロフスキー指揮
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ3(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット3(Esクラリネット1)、バス・クラリネット1、ファゴット3(コントラファゴット1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、大太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、小太鼓、トライアングル、タンブリン、グロッケンシュピール、ラチェット、ハーブ2、チェレスタ1、弦楽

N響百年史

第三十回—近衛秀麿、逃げそこなう

片山杜秀 — Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK—FM「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしてもお馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。一九二六（大正二五）年、日本交響楽協会、分裂。あとは師の山田耕筈に任せて身を引いて、再び洋行をもくろむ近衛秀麿でした。

近衛、再びヨーロッパへ!?

NHK交響楽団の誕生の仕方はどのように語られてきたのか。たとえば『NHK交響楽団五十年史』（NHK交響楽団編集、日本放送出版協会刊行、1977年）にはこうある。

「(1926/大正15年の)6月27日までに12回の演奏会を開いて第1楽季を終了し(中略)、秋のシーズンも9月18日の土曜日から定期演奏会を開くことを決め、年内の予定日と曲目を全部発表していた日本交響楽協会は、諸般の事情で分裂し、協会員44名は近衛(秀麿)と共にこれを去る。理由は山田(耕筈)側にも近衛側にもそれぞれあると思われるが、いずれにせよ、この年の10月5日数寄屋橋畔の塚本音楽事務所の2階で、近衛以下40数名が新しいオーケストラの結成式を上げ、小公園の(関東大震災の)焼け残りの電柱を椅子がわりにして記念撮影などし、『将来は法人化した日本フィルハーモニック・オーケストラとしたい』と話し合って名付けたのが『新交響楽団』であった。この名前をわれわれは俗に『新響』と呼んで、その後数十年親しみ続けたのである。われわれのN響史はこの時からスタートを切る」

もちろんこの記述はとても正しい。とはいえ、多少の注釈を付けてもよいかもしれない。「協会員44名は近衛と共にこれを去る」という箇所。これを普通に読めば、山田耕筈率いる日本交響楽協会から、近衛秀麿と圧倒的多数の楽団員とが、相図ってというか、ともに企んでというか、分裂劇を演出したようにもとれる。が、そう単純にいえないところがある。山田の“不明朗会計”とそれによって生じた多額の赤字に近衛がうんざりし、弟子として師匠を立てつづけるにも限度があるとばかりに、日本交響

楽協会からの脱退を宣言したのは、前回ふれたとおり、9月7日だった。そのとき近衛は新聞雑誌の取材に応じ、しばらくはひとりで音楽の修行をする、日本交響楽協会は近衛ひとりがいなくなれば、山田のもとで改めて団結し直せるはずといった趣旨のことを語った。

近衛は9月に入っても、分裂を望むどころか、かえって恐れていたのである。せっかく日本で唯一の演奏会用交響楽団が育ちつつあるときに、山田派と近衛派に再び分かれては、すべては水泡に帰しかねない。当時の社会的現実を見れば、東京でプロ・オーケストラが定期演奏会をやろうとしたら、定期会員になってくれる聴衆の数からいっても、1団体が限度であろう。分裂して2団体が競って、足りない聴衆の奪い合いとなり、共倒れになるのが落ちだ。しかも、定期会員を増やせばプロ・オーケストラが自立できるなんてことでもない。放送局というスポンサーあって、やっとのところで日本交響楽協会は活動できている。放送局とのパイプとなると、近衛よりも山田のほうが圧倒的に長く深い。社団法人東京放送局からこの夏に日本放送協会の東京中央放送局に代わっても、山田と放送局のつながりは保たれるだろう。“不明朗会計”が発覚したといって、放送局が山田を棄てて近衛に乗り換えるなどとは、少なくとも近衛は思っていなかった。

近衛が日本交響楽協会を分裂させずに自分だけ退こうと考える理由はまだほかにもあった。なにしろ近衛は公爵家の次男坊である。兄は近衛文麿^{かみまろ}なのだ。自身も子爵である。プロ・オーケストラを丸抱えするのは無理としても、自分ひとりが欧米で活躍したいと思えば、できぬことはない。それなりの元手もある。兄も応援してくれるだろう。すでにベルリンに留学し、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団も指揮

している。欧州に頼りになるマネージャーもいる。山田と決裂したのは再度渡欧するのによい機会だ。西洋音楽の本場は欧州に決まっている。腕前はまだまだの日本人楽団を鍛えて、経済のことまで含めて苦勞し続けるのと、上手な本場の一流楽団相手に伸び盛りの青年音楽家である自らを鍛えるのと、どちらがよいか。近衛の答えは9月上旬の段階でははっきりしていた。今後は単身で音楽の修行をすると述べたのは、再度渡欧するという決意表明に他なるまい。

つまり近衛は、新交響楽団と名付けられることになるオーケストラを作りたくてうずうずしていたわけでは、ちっともなかった。逆に逃げ出そうとしていたのだろう。もしも分裂となれば、山田よりも近衛を選んだ楽員たちを見捨てるわけにもゆかない。欧州での再びの音楽武者修行の実現は遠ざかる。おまけに放送局の支援も分裂派にはなされぬとしたら？ 近衛の自由になるお金を投じたくらいでは組織の存続は無理であろう。ここは山田に任せて逃げるが勝ちである。政治の世界に身を投じた兄も^{かんじん}肝腎なときには逃げ出し気味になることが多かったが、弟にも似たところがあったといえなくもない。貴族の気質である。近衛は、日本交響楽協会のメンバーたちからオーケストラを割らないように誓約書もっていた。そのうえで、自分だけ退いてしまおうとした。

引き裂かれる近衛

むろん、近衛は後釜^{あとがま}のことも考えていた。ヨーゼフ・ケーニヒが適役だ。1926年上半年期の第1楽季、病に倒れた山田の代役等で、協会を幾度も振っていた。彼は、1925(大正14)

年の日露交驩(交歓)管絃楽演奏会の際に、ハルビンから来日した音楽家たちの中でも抜きんでた大物のひとりで、日露合同の臨時交響楽団ではコンサートマスターを務めた。1874年のプラハ生まれ。プラハ音楽院でドヴォルザークに学び、ヴァイオリニストとして世に出、アムステルダムやヘルシンキのオーケストラを経て、セントペテルブルクのマリンスキー劇場管絃楽団のコンサートマスターの地位に長くあり、ロシア革命後はハルビンに逃げてきていた名手である。

そんなケーニヒは社団法人東京放送局に招かれ、ハルビンから東京に移っていた。同局が、局の総裁・後藤新平の強い意向に基づいて、日本交響楽協会の面倒を見ることになったとき、山田や近衛や楽員たちは、日露交驩管絃楽演奏会のために招聘したハルビンの音楽家をひとりでも多く、放送局の力で日本に再招聘し、日露混成によるハイ・クオリティの交響楽団が恒常的に組織されることを期待した。だが、放送局の予算では如何ともしがたい。せめて、日本交響楽協会の技量向上のために、トレーナー兼指揮者として、ケーニヒを放送局の専属実演家という待遇で招こう。彼は承知した。1925年のうちに再来日した。ケーニヒなら、近衛に代わって、日本交響楽協会を、山田とともに率いる立場になってもおかしくない。

ところが、それで協会の分裂を阻止できるつもりだった近衛の読みはあまりに甘かった。近衛が辞めるなら、山田を見限って近衛と新しいオーケストラを作りたい。分裂を志向する楽員たちは、近衛が協会脱退の届けを山田に出してから1週間も経たぬうちに旗幟を鮮明にした。しかもその数が普通の分裂というのとは違った。山田にも近衛にも想定外だった。9割方が近衛の側に付いてしまった。「協会員44

名は近衛と共にこれを去る」となった。

だが、ここで確認すれば、近衛と彼を慕う楽員たちは日本交響楽協会を脱退したのである。山田が出ていったのではない。東京放送局から日本放送協会に契約が受け継がれていた楽団は、あくまでも山田の率いる日本交響楽協会だ。山田は放送局の洋楽番組編成顧問でもあり、日本交響楽協会の出演枠を差配する力もあった。大量脱退のあとにはわずか4人の楽員しか残っていないとはいえ、協会の名前はまだ生きている。日本放送協会が契約を保って、協会がよそから楽員を集め、体制を整え直したらどうなるか。近衛派の新オーケストラがスタートしたとしても、放送局の後ろ盾がなければ厳しい。9月下旬の近衛は悩めるハムレットであった。洋行するのか、しないのか。新オーケストラの旗を揚げるのか、揚げるのか。

■ 引導を渡された山田

けれど、案ずるより産むが易し。東京放送局から日本放送協会への組織改編によって、山田を応援していた後藤新平の人脈はもはや放送局には残っていない。協会が大量脱退劇によって危機に瀕しているからといって、金銭トラブルを抱える山田になおも同情し、楽団の建て直しに肩入れする動きなど、もはや出ようもなかった。日本放送協会としては、東京放送局時代からの芸術性の高い音楽番組としてのオーケストラ演奏の生放送の枠を維持できればよい。そこで手取り早いのは、山田のオーケストラから近衛のオーケストラに乗り換えることである。早く近衛に新楽団を旗揚げしてほしい。日本放送協会の本音であった。もちろん、

そのためには山田を番組編成の顧問から外し、日本交響楽協会との出演契約も打ち切るステップが必要である。どうしたらそうできるか。

素早いタイミングで絵に描いたようなことが起こった。9月27日、原善一郎が山田を告訴した。山田は“不明朗会計”の責任を日本交響楽協会のマネージャーの原に押し付けて解雇し、山田と近衛の軋轢の深まる原因にもなったのだが、原は、山田こそが不正の総本山であると、法的に争うことになった。真相は不透明のままであるにせよ、山田の名がますますスキャンダラスになったことは間違いない。日本放送協会が山田に引導を渡す材料はそれで十分だった。翌28日、日本放送協会は山田との契約を解除すると決めた。日本交響楽協会の優先的な番組出演権も消滅に向かった。山田の後任として、日本放送協会で洋楽番組編成の実権を握ったのは、堀内敬三である。音楽評論から作詞、訳詞、作曲までを広く手掛け、1941(昭和16)年から出版社、音楽之友社の経営者、戦後にはNHKのラジオ番組『音楽の泉』のパーソナリティにもなる。堀内は山田のシンパでもあったが、このときは、山田から近衛への乗り換えを積極的に演出したと思われる。とにかく9月末以降、日本放送協会は近衛に、日本交響楽協会の脱退メンバーをとりまとめ、早急に新オーケストラを結成し、近衛のみならずケニーにも指揮させて、放送番組に常時出演することを求めた。放送局が日本交響楽協会に与えて来た諸々の待遇を、新オーケストラにスライドさせる約束もした。近衛は決断せざるを得なくなった。欧州での挑戦を先延ばしとし、日本でのオーケストラ運動

を師匠に代わって牽引する覚悟を固めた。意地悪な言い方をすれば、こうして近衛は逃げることになった。

新交響楽団、遂に誕生

はて、新しい楽団の名称をどうするか。日本交響楽協会の看板を山田から取り上げて近衛のほうに掛け直したら、団体としての継続性もわかりやすく伝わり、それはそれでよかったのかもしれない。しかし、山田は日本交響楽協会の名を商標登録していた。勝手に使えない。近衛は、引き続き東京でおのれが活動するとなったら、日本のリーディング・オーケストラを育てたいのだから、名前にも国名を冠したい。けれども、まだ誇るほどの実力はないのかもしれないし、日本の2文字を使えば、どう名付けてみても日本交響楽協会とダブリ感がある。「将来は法人化した日本フィルハーモニック・オーケストラとしたい」という含みを持ちつつ、とりあえず「新交響楽団」で落ち着いた。いずれ、国の名がつくことになっている新しいオーケストラというくらいの意であろうか。新交響楽団が16年後に日本交響楽団と名を改める伏線もここにある。

文 | 片山杜秀(かたやま もりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』ほか著書多数。

2022年10月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

御年95歳。桂冠名誉指揮者ヘルベルト・ブロムシュテットを語るとき、つい年齢のことから始めてしまうが、何だかそれはとても的外れな感じもする。清々しい香気に満ちた音楽は、円熟や老成といった形容からも遠く、まるで永遠の生命を得つつあるかのようだ。今年もN響に“ブロムシュテットの秋”がやってくる。

マーラー《第9番》で 生きる喜びを晴れやかに歌い上げる

[Aプログラム]はマーラーが完成させた最後の交響曲である《第9番》。今までこの曲は、健康への不安を抱えた作曲家が、死の予感に怯えながら書いた“現世への告別の辞”^{おび}と言われてきた。しかし最近、こうした見方には疑問が呈されている。脂の乗り切ったマーラーによる、充実した日々の所産だというのである。それを裏付けるようにブロムシュテットも「生きる喜びを歌い上げた、晴れやかな音楽」と語っている。この大作はむしろ、生死や美醜などあらゆる対立概念を包み込んだ、マー

ラーの世界観の集大成と捉えるべきだろう。

マエストロと演奏する《第9番》は12年ぶりだが、曲のイメージから連想される「最後の機会かも知れない」といった特別な思いは、私たちに露ほどもない。おそらく作曲当時のマーラーがそうであったように。選曲も演奏も、マエストロにとってはあくまで音楽家としての日常の一部なのだ。だが同時にそれは生きることそのもの、神から与えられた使命でもある。

純粋なアマチュア精神が宿る シューベルト初期の交響曲

シューベルトの交響曲は、《未完成》と《グレート》を除く6曲が、初期の完成作品とみなされている。[Cプログラム]では、その最初と最後の作品を聴く。

ウィーンの神学校に通っていたシューベルトは16歳で《交響曲第1番》を書いた。この頃、彼は友人たちと日夜アンサンブルを楽しみ、作曲に励んだというが、10代のブロムシュテットも兄を含む仲間とカルテットを結成し、活動

に熱中した。純粋なアマチュア精神は2人に共通するキャリアの原点であり、マエストロが一貫してシューベルトに愛情を注ぐ理由のひとつかも知れない。

《第1番》の4年後、自ら“大交響曲”と銘打った《交響曲第6番》には、青年作曲家の自負がみなぎる。ハイドンやベートーヴェンの影響を受けながら、リートやオペラを思わせる豊かな歌謡性はまさにシューベルトの世界。

ブロムシュテットは40年以上前に、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団とシューベルトの交響曲全集を録音しているが、その後の研究により、当時とは全く違う作品像が提示されるはずだ。

ドイツ音楽を独自のものに昇華させた
北欧の作曲家たち

[Bプログラム]はグリーグとニルセン。北欧の作曲家たちは、ドイツ音楽から多くを学ん

でいる。若き日のグリーグが留学したのは、ブロムシュテットゆかりのライブツィヒだった。

グリーグは優れたピアニストでもあったが、《ピアノ協奏曲》を弾くオリムストネンも、指揮や作曲で多才ぶりを発揮している。型通りではない演奏スタイルはそのためか。北欧出身同士、気心の知れたマエストロとの丁々発止が楽しみだ。

ニルセンはブラームスの影響を受けながら、ユニークな和声やリズム、形式を追求し、デンマークを代表する交響曲作家となった。《交響曲第3番》も、ヴォカリーズを加えるなど、意外な仕掛けに富んだ1曲。昨年《第5番》に続き、ニルセンの伝道師ブロムシュテットによる名演が期待できよう。

[西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹]

A 10/15 土 6:00pm
10/16 日 2:00pm
NHKホール

マーラー／交響曲 第9番 二長調
指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット



B 10/26 水 7:00pm
10/27 木 7:00pm
サントリーホール

グリーグ／ピアノ協奏曲 イ短調 作品16
ニルセン／交響曲 第3番 作品27「広がり」
指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット
ピアノ：オリムストネン



C 10/21 金 7:30pm
10/22 土 2:00pm
NHKホール

シューベルト／交響曲 第1番 二長調 D. 82
シューベルト／交響曲 第6番 八長調 D. 589
指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット



チケットのご案内(定期公演 2022年9月~2023年6月)

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日	9・10・11月	発売中
	12・1・2月	10月27日[木](定期会員先行)／10月30日[日](一般)
	4・5・6月	2023年3月発売予定(定期会員先行／一般)

※発売日は決まり次第、N響ホームページ等で発表いたします

※発売予定時期は変更となる場合があります

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10~30%お得です! (割引率は公演や券種によって異なります)

※ A-CプログラムはNHKホール改修工事の終了にともない、今シーズンより会場をNHKホールに戻して開催します

※ A-2とC-2の開演時刻は2:00pm、C-1の開演時刻は7:30pmとさせていただきます。A-1(6:00pm)、B-1、B-2(7:00pm)の開演時刻に変更はございません

発売開始日	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	発売中
	シーズン会員券(Winter)	2022年10月13日[木](定期会員先行)／2022年10月19日[水](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2023年2月14日[火](定期会員先行)／2023年2月17日[金](一般)

料金(税込)

券種	S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
年間会員券(9回) [A・Bプログラム]	¥65,970 (¥7,330)	¥56,610 (¥6,290)	¥44,010 (¥4,890)	¥35,730 (¥3,970)	¥27,540 (¥3,060)	¥8,100 (¥900)
年間会員券(9回) [Cプログラム]	¥56,610 (¥6,290)	¥49,725 (¥5,525)	¥39,780 (¥4,420)	¥32,130 (¥3,570)	¥24,480 (¥2,720)	¥7,200 (¥800)

券種	S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
シーズン会員券(3回) [Aプログラム]	¥23,820 (¥7,940)	¥19,860 (¥6,620)	¥15,570 (¥5,190)	¥12,540 (¥4,180)	¥9,480 (¥3,160)	¥3,300 (¥1,100)
シーズン会員券(3回) [Cプログラム]	¥19,890 (¥6,630)	¥17,520 (¥5,840)	¥14,010 (¥4,670)	¥11,250 (¥3,750)	¥8,550 (¥2,850)	¥3,000 (¥1,000)

※()内は1公演あたりの単価

WEBセレクト3+

Autumn(9~11月)、Winter(12~2月)、Spring(4~6月)の各シーズン内の公演(9プログラム18公演)のうち、3公演以上まとめて購入すると、1回券の一般料金より約8%割引いただけます。座席・券種は自由にお選びいただけます。

- ※ お取り扱いにはWEBチケットN響のみとなります
- ※ 1回券の一般発売日からご利用いただけます
- ※ 割引の併用はできません
- ※ 定期会員の方は1回券の会員割引(約10%割引)をご利用ください

ユースチケット

25歳以下の方へのお得なチケットです。

1回券と定期会員券(D席)でご利用いただけます。2022-23シーズンからユースチケット1回券は、すべての券種で一般料金から50%以上お得にお買い求めいただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

- ※ N響ガイドのみの販売となります
- ※ 25歳以下の証明となるものをご提示いただきます

お問い合わせ

N響ガイド | TEL 03-5793-8161

営業時間: 11:00am~5:00pm

定休日: 土・日・祝日、定期公演Aプログラムの翌月曜日

- 主催公演開催日は曜日に問わず11:00am~開演時刻まで営業
- 発売初日の土・日・祝日は11:00am~3:00pmの営業
- 感染症予防対策のため電話受付のみの営業

WEBチケットN響(手数料無料) <https://ticket.nhks.or.jp>

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません

Please follow us on     

2022-23定期公演プログラム

2022 09	A	第1962回	新首席指揮者が最高峰の歌手たちと築く音の壮麗な記念碑 ファビオ・ルイージ首席指揮者就任記念 ヴェルディ/レクイエム 指揮:ファビオ・ルイージ テノール:ルネ・バルベラ ソプラノ:ヒブラ・ゲルズマワウ バス:ヨン・グァンチョル メゾ・ソプラノ:オレシア・パトロヴァ 合唱:新国立劇場合唱団	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,000 E ¥3,300	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,200 D ¥2,500 E ¥1,600
		9/10(土) 6:00pm 9/11(日) 2:00pm	NHKホール	一般 S ¥9,800 A ¥8,400 B ¥6,700 C ¥5,400 D ¥4,400	ユースチケット S ¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,300 C ¥2,500 D ¥1,800
	B	第1964回	新首席指揮者がN響と取り組むドイツ・オーストリア王道の傑作 ファビオ・ルイージ首席指揮者就任記念 ベートーヴェン/ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61 ブラームス/交響曲 第2番 二長調 作品73 指揮:ファビオ・ルイージ ヴァイオリン:ジェームズ・エーネス	一般 S ¥9,800 A ¥8,400 B ¥6,700 C ¥5,400 D ¥4,400	ユースチケット S ¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,300 C ¥2,500 D ¥1,800
2022 10	A	第1963回	ルイージ&N響が紡ぐR. シュトラウスの豊潤な響きに身をゆだねる ファビオ・ルイージ首席指揮者就任記念 R. シュトラウス/交響詩「ドン・ファン」作品20 R. シュトラウス/オーボエ協奏曲 二長調 R. シュトラウス/歌劇「ばらの騎士」組曲 指揮:ファビオ・ルイージ オーボエ:エヴァ・スタイナー	一般 S ¥7,400 A ¥6,500 B ¥5,200 C ¥4,200 D ¥3,200 E ¥1,600	ユースチケット S ¥3,500 A ¥3,000 B ¥2,400 C ¥1,900 D ¥1,400 E ¥800
		9/16(金) 7:30pm 9/17(土) 2:00pm	NHKホール	一般 S ¥9,800 A ¥8,400 B ¥6,700 C ¥5,400 D ¥4,400 E ¥2,800	ユースチケット S ¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,300 C ¥2,500 D ¥1,800 E ¥1,400
	B	第1965回	マーラー芸術の集大成「交響曲第9番」をプロムシュテットが究める マーラー/交響曲 第9番 二長調 指揮:ヘルベルト・プロムシュテット	一般 S ¥9,800 A ¥8,400 B ¥6,700 C ¥5,400 D ¥4,400 E ¥2,800	ユースチケット S ¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,300 C ¥2,500 D ¥1,800 E ¥1,400
2022 11	A	第1967回	グリーグとニルセン プロムシュテットが愛でる北欧の名作 グリーグ/ピアノ協奏曲 イ短調 作品16 ニルセン/交響曲 第3番 作品27「広がり」 指揮:ヘルベルト・プロムシュテット ピアノ:オリムストーン	一般 S ¥9,800 A ¥8,400 B ¥6,700 C ¥5,400 D ¥4,400	ユースチケット S ¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,300 C ¥2,500 D ¥1,800
		10/26(水) 7:00pm 10/27(木) 7:00pm	サントリーホール	一般 S ¥7,400 A ¥6,500 B ¥5,200 C ¥4,200 D ¥3,200 E ¥1,600	ユースチケット S ¥3,500 A ¥3,000 B ¥2,400 C ¥1,900 D ¥1,400 E ¥800
	C	第1966回	巨匠が愛情をこめて奏でるシューベルトの知られざる名作 シューベルト/交響曲 第1番 二長調 D. 82 シューベルト/交響曲 第6番 八長調 D. 589 指揮:ヘルベルト・プロムシュテット	一般 S ¥7,400 A ¥6,500 B ¥5,200 C ¥4,200 D ¥3,200 E ¥1,600	ユースチケット S ¥3,500 A ¥3,000 B ¥2,400 C ¥1,900 D ¥1,400 E ¥800
2022 11	A	第1968回	完全燃焼への序章 井上道義のお家芸 伊福部&シヨスタコヴィチ 伊福部 昭/シンフォニア・タブカーラ シヨスタコヴィチ/交響曲 第10番 ホ短調 作品93 指揮:井上道義	一般 S ¥8,900 A ¥7,400 B ¥5,800 C ¥4,700 D ¥3,700 E ¥2,000	ユースチケット S ¥4,000 A ¥3,500 B ¥2,800 C ¥2,100 D ¥1,500 E ¥1,000
		11/12(土) 6:00pm 11/13(日) 2:00pm	NHKホール	一般 S ¥8,900 A ¥7,400 B ¥5,800 C ¥4,700 D ¥3,700 E ¥2,000	ユースチケット S ¥4,000 A ¥3,500 B ¥2,800 C ¥2,100 D ¥1,500 E ¥1,000
	B	第1970回	エキスパートのタクトで味わう英国作曲界の巨人による叙情あふれる名作 ヴォーン・ウィリアムズ生誕150年 ヴォーン・ウィリアムズ/「富める人とラザロ」の5つのヴァリアント メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64 ヴォーン・ウィリアムズ/交響曲 第5番 二長調 指揮:レナード・スラットキン ヴァイオリン:レイ・チェン	一般 S ¥8,900 A ¥7,400 B ¥5,800 C ¥4,700 D ¥3,700	ユースチケット S ¥4,000 A ¥3,500 B ¥2,800 C ¥2,100 D ¥1,500
C	第1969回	アメリカ音楽の伝道師スラットキンのコーブラント名バラエ音楽集 コーブラント/バラエ音楽「アバラチアの春」(全曲) コーブラント/バラエ音楽「ロデオ」(全曲) 指揮:レナード・スラットキン	一般 S ¥7,400 A ¥6,500 B ¥5,200 C ¥4,200 D ¥3,200 E ¥1,600	ユースチケット S ¥3,500 A ¥3,000 B ¥2,400 C ¥1,900 D ¥1,400 E ¥800	
	11/18(金) 7:30pm 11/19(土) 2:00pm	NHKホール	一般 S ¥7,400 A ¥6,500 B ¥5,200 C ¥4,200 D ¥3,200 E ¥1,600	ユースチケット S ¥3,500 A ¥3,000 B ¥2,400 C ¥1,900 D ¥1,400 E ¥800	

A NHKホール		B サントリーホール		C NHKホール	
開場5:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm		開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm		開場6:30pm 開演7:30pm 開場1:00pm 開演2:00pm	
2022 12	A	第1971回 12/3(土) 6:00pm 12/4(日) 2:00pm	ルイージ&藤村のコンビで味わう19世紀ドイツ・ロマンティズムの真髄 ワーグナー／ウェーゼンドンクの5つの詩 ブルックナー／交響曲 第2番 ハ短調(初稿/1872年)	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800 E ¥2,800 E ¥1,400	
	B	第1973回 12/14(水) 7:00pm 12/15(木) 7:00pm	ルイージの指揮、河村尚子のピアノで“究極”の名曲を堪能する グリムカ／歌劇「ルスランとリユドミーラ」序曲 ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18 ドヴォルザーク／交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界から」	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800	
	C	第1972回 12/9(金) 7:30pm 12/10(土) 2:00pm	モーツァルトの輝き、メンデルスゾーンの哀愁 ルイージが描き出す鮮烈なコントラスト モーツァルト／交響曲 第36番 ハ長調 K. 425「リンツ」 メンデルスゾーン／交響曲 第3番 イ短調 作品56「スコットランド」	一般 ユースチケット S ¥7,400 S ¥3,500 A ¥6,500 A ¥3,000 B ¥5,200 B ¥2,400 C ¥4,200 C ¥1,900 D ¥3,200 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800	
2023 01	A	第1974回 1/14(土) 6:00pm 1/15(日) 2:00pm	名匠がブラームスとベートーヴェンの傑作を携え3年ぶりに登場! ブラームス／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83 ベートーヴェン／交響曲 第4番 変ロ長調 作品60	一般 ユースチケット S ¥8,900 S ¥4,000 A ¥7,400 A ¥3,500 B ¥5,800 B ¥2,800 C ¥4,700 C ¥2,100 D ¥3,700 D ¥1,500 E ¥2,000 E ¥1,000	
	B	第1976回 1/25(水) 7:00pm 1/26(木) 7:00pm	色彩の魔術師ソビエフがセレクトする20世紀の名品たち バルトーク／ヴァイオリン協奏曲(シロイ版) ラヴェル／「ダフニスとクロエ」組曲 第1番、第2番 ドビュッシー／交響詩「海」	一般 ユースチケット S ¥8,900 S ¥4,000 A ¥7,400 A ¥3,500 B ¥5,800 B ¥2,800 C ¥4,700 C ¥2,100 D ¥3,700 D ¥1,500	
	C	第1975回 1/20(金) 7:30pm 1/21(土) 2:00pm	名匠が贈るラフマニノフ、チャイコフスキーの初期の名作 ラフマニノフ／幻想曲「岩」作品7 チャイコフスキー／交響曲 第1番 ト短調 作品13「冬の日の幻想」	一般 ユースチケット S ¥7,400 S ¥3,500 A ¥6,500 A ¥3,000 B ¥5,200 B ¥2,400 C ¥4,200 C ¥1,900 D ¥3,200 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800	
2023 02	A	第1977回 2/4(土) 6:00pm 2/5(日) 2:00pm	父・尚忠とその友人たち 尾高忠明 こだわりの選曲が現代人の魂に響く 尾高尚忠／チェロ協奏曲 イ短調 作品20 パヌフニク／カティンの墓碑銘 ルトスワフスキ／管弦楽のための協奏曲	一般 ユースチケット S ¥8,900 S ¥4,000 A ¥7,400 A ¥3,500 B ¥5,800 B ¥2,800 C ¥4,700 C ¥2,100 D ¥3,700 D ¥1,500 E ¥2,000 E ¥1,000	
	B	第1979回 2/15(水) 7:00pm 2/16(木) 7:00pm	大器フルシャ、母国チェコの愛国的作品とブラームスの名作を携えN響再登場 ドヴォルザーク／序曲「フス教徒」作品67 シマノフスキー／交響曲 第4番 作品60「協奏交響曲」* ブラームス／交響曲 第4番 ホ短調 作品98	一般 ユースチケット S ¥8,900 S ¥4,000 A ¥7,400 A ¥3,500 B ¥5,800 B ¥2,800 C ¥4,700 C ¥2,100 D ¥3,700 D ¥1,500	
	C	第1978回 2/10(金) 7:30pm 2/11(土祝) 2:00pm	愛、怒り、高揚、憧れ、幻想 —ダンスに込められた心の機微をフルシャが浮か上らせる バーンスタイン／「ウエスト・サイド・ストーリー」からシンフォニック・ダンス ラフマニノフ／交響的舞曲 作品45	一般 ユースチケット S ¥7,400 S ¥3,500 A ¥6,500 A ¥3,000 B ¥5,200 B ¥2,400 C ¥4,200 C ¥1,900 D ¥3,200 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800	

2023 04	A	<p>第1980回</p> <p>4/15(土) 6:00pm</p> <p>4/16(日) 2:00pm</p> <p>NHKホール</p>	<p>バーヴォ・ヤルヴィ&N響が大管弦楽で描くアルプスの壮大なパノラマ</p> <p>R. シュトラウス／「ヨゼフの伝説」から交響的断章</p> <p>R. シュトラウス／アルプス交響曲 作品64</p> <p>指揮:バーヴォ・ヤルヴィ</p>	<p>一般 ユースチケット</p> <p>S ¥9,800 S ¥4,500</p> <p>A ¥8,400 A ¥4,000</p> <p>B ¥6,700 B ¥3,300</p> <p>C ¥6,400 C ¥2,500</p> <p>D ¥4,400 D ¥1,800</p> <p>E ¥2,800 E ¥1,400</p>
	B	<p>第1982回</p> <p>4/26(水) 7:00pm</p> <p>4/27(木) 7:00pm</p> <p>サントリーホール</p>	<p>シベリウス、ラフマニノフ、チャイコフスキー</p> <p>バーヴォ・ヤルヴィの十八番でその至芸を聴く</p> <p>シベリウス／交響曲 第4番 イ短調 作品63</p> <p>ラフマニノフ／パガニーニの主題による狂詩曲 作品43*</p> <p>チャイコフスキー／幻想曲「フランチェスカ・ダ・リミニ」作品32</p> <p>指揮:バーヴォ・ヤルヴィ ピアノ:マリー・アンジュ・グッチ*</p>	<p>一般 ユースチケット</p> <p>S ¥9,800 S ¥4,500</p> <p>A ¥8,400 A ¥4,000</p> <p>B ¥6,700 B ¥3,300</p> <p>C ¥6,400 C ¥2,500</p> <p>D ¥4,400 D ¥1,800</p>
	C	<p>第1981回</p> <p>4/21(金) 7:30pm</p> <p>4/22(土) 2:00pm</p> <p>NHKホール</p>	<p>小粒でもピリリと辛い!</p> <p>バーヴォ・ヤルヴィが贈るお洒落で小粋なフランス作品集</p> <p>ルーセル／弦楽のためのシンフォニエッタ 作品52</p> <p>ブーランク／シンフォニエッタ</p> <p>イペール／室内管弦楽のためのディヴェルティスマン</p> <p>指揮:バーヴォ・ヤルヴィ</p>	<p>一般 ユースチケット</p> <p>S ¥7,400 S ¥3,500</p> <p>A ¥6,500 A ¥3,000</p> <p>B ¥5,200 B ¥2,400</p> <p>C ¥4,200 C ¥1,900</p> <p>D ¥3,200 D ¥1,400</p> <p>E ¥1,600 E ¥800</p>
2023 05	A	<p>第1983回</p> <p>5/13(土) 6:00pm</p> <p>5/14(日) 2:00pm</p> <p>NHKホール</p>	<p>下野竜也が見つめる「祈り」と「奇跡」そしてライフワークのドヴォルザーク</p> <p>ラフマニノフ／歌曲集 作品34</p> <p>—「ラザロのよみがえり」(下野竜也編)、「ヴォカリーズ」</p> <p>グバイドウーリナ／オフフェルトリウム*</p> <p>ドヴォルザーク／交響曲 第7番 二短調 作品70</p> <p>指揮:下野竜也 ヴァイオリン:バイバ・スクリデ*</p>	<p>一般 ユースチケット</p> <p>S ¥8,900 S ¥4,000</p> <p>A ¥7,400 A ¥3,500</p> <p>B ¥6,800 B ¥2,800</p> <p>C ¥4,700 C ¥2,100</p> <p>D ¥3,700 D ¥1,500</p> <p>E ¥2,000 E ¥1,000</p>
	B	<p>第1985回</p> <p>5/24(水) 7:00pm</p> <p>5/25(木) 7:00pm</p> <p>サントリーホール</p>	<p>新緑の季節 清々しいホルンの響きとルイーザが誘う「田園」</p> <p>ハイドン／交響曲 第82番 八長調 Hob. I-82「クマ」</p> <p>モーツァルト／ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調 K.447</p> <p>ベートーヴェン／交響曲 第6番 へ長調 作品68「田園」</p> <p>指揮:ファビオ・ルイーザ</p> <p>ホルン:福川伸陽</p>	<p>一般 ユースチケット</p> <p>S ¥9,800 S ¥4,500</p> <p>A ¥8,400 A ¥4,000</p> <p>B ¥6,700 B ¥3,300</p> <p>C ¥6,400 C ¥2,500</p> <p>D ¥4,400 D ¥1,800</p>
	C	<p>第1984回</p> <p>5/19(金) 7:30pm</p> <p>5/20(土) 2:00pm</p> <p>NHKホール</p>	<p>19世紀末のフランスを象徴する交響楽の名品をルイーザの指揮で聴く</p> <p>ザン・サンス／ピアノ協奏曲 第5番 へ長調 作品103「エジプト風」</p> <p>フランク／交響曲 二短調</p> <p>指揮:ファビオ・ルイーザ</p> <p>ピアノ:バスカル・ロジェ</p>	<p>一般 ユースチケット</p> <p>S ¥7,400 S ¥3,500</p> <p>A ¥6,500 A ¥3,000</p> <p>B ¥6,200 B ¥2,400</p> <p>C ¥4,200 C ¥1,900</p> <p>D ¥3,200 D ¥1,400</p> <p>E ¥1,600 E ¥800</p>
2023 06	A	<p>第1986回</p> <p>6/10(土) 6:00pm</p> <p>6/11(日) 2:00pm</p> <p>NHKホール</p>	<p>“カゼツラ・リバイバル”の仕掛人ノセダが贈る傑作歌劇のエッセンス</p> <p>プロコフィエフ／交響組曲「3つのオレンジへの恋」作品33bis</p> <p>プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第2番 短調 作品16</p> <p>カゼツラ／歌劇「蛇女」からの交響的断章[日本初演]</p> <p>指揮:ジャンンドレア・ノセダ ピアノ:ペフノド・アブドゥライモフ*</p> <p>*当初発表の出演者から変更となりました。</p>	<p>一般 ユースチケット</p> <p>S ¥8,900 S ¥4,000</p> <p>A ¥7,400 A ¥3,500</p> <p>B ¥5,800 B ¥2,800</p> <p>C ¥4,700 C ¥2,100</p> <p>D ¥3,700 D ¥1,500</p> <p>E ¥2,000 E ¥1,000</p>
	B	<p>第1988回</p> <p>6/21(水) 7:00pm</p> <p>6/22(木) 7:00pm</p> <p>サントリーホール</p>	<p>ノセダがメモリアルイヤーに問うラフマニノフ初期作の真価</p> <p>パツハ(レスピーギ編)／3つのコラル</p> <p>レスピーギ／グレゴリオ風協奏曲*</p> <p>ラフマニノフ／交響曲 第1番 二短調 作品13</p> <p>指揮:ジャンンドレア・ノセダ</p> <p>ヴァイオリン:庄司紗矢香*</p>	<p>一般 ユースチケット</p> <p>S ¥8,900 S ¥4,000</p> <p>A ¥7,400 A ¥3,500</p> <p>B ¥5,800 B ¥2,800</p> <p>C ¥4,700 C ¥2,100</p> <p>D ¥3,700 D ¥1,500</p>
	C	<p>第1987回</p> <p>6/16(金) 7:30pm</p> <p>6/17(土) 2:00pm</p> <p>NHKホール</p>	<p>満を持してN響で初披露 ノセダ得意のショスタコーヴィチ(第8番)</p> <p>ショスタコーヴィチ／交響曲 第8番 八短調 作品65</p> <p>指揮:ジャンンドレア・ノセダ</p>	<p>一般 ユースチケット</p> <p>S ¥7,400 S ¥3,500</p> <p>A ¥6,500 A ¥3,000</p> <p>B ¥5,200 B ¥2,400</p> <p>C ¥4,200 C ¥1,900</p> <p>D ¥3,200 D ¥1,400</p> <p>E ¥1,600 E ¥800</p>

*今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

(料金はすべて税込)

特別公演

12/21 **水** 7:00pm
12/22 **木** 7:00pm
12/24 **土** 2:00pm
12/25 **日** 2:00pm

ベートーヴェン「第9」演奏会

NHK ホール

指揮:井上道義 ソプラノ:クリスティーナ・ランツハマー メゾ・ソプラノ:藤村実穂子 テノール:ベンヤミン・ブルンス
バス:マシュー・ローズ 合唱:新国立劇場合唱団、東京オペラシンガーズ
ベートーヴェン／交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席15,000円 A席12,000円 B席9,000円 C席6,500円 D席4,500円
ユースチケット(25歳以下) | S席7,500円 A席6,000円 B席4,500円 C席3,250円 D席2,250円

主催:NHK・NHK交響楽団 / NHK・NHK厚生文化事業団(22日公演のみ)
協賛:みずほ証券株式会社 / はごろもフーズ株式会社 / JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社 / 株式会社明電舎

12/27 **火** 7:00pm | かんぼ生命 presents N響第九 Special Concert

サントリーホール

指揮:井上道義 オルガン:勝山雅世* ソリスト・合唱はベートーヴェン「第9」演奏会と同じ
ダカン／ノエル集 作品2—第10曲「グランジュとデュオ」ト長調* ラインケン／フーガ短調*
バッハ／前奏曲とフーガ ハ長調 BWV545*
ベートーヴェン／交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席17,500円 A席14,500円 B席11,500円 C席8,000円
ユースチケット(25歳以下) | S席8,750円 A席7,250円 B席5,750円 C席4,000円

主催:NHK交響楽団 特別協賛:株式会社かんぼ生命保険

第9チケット発売:定期会員先行(22日公演をのぞく) | 10月5日(水)11:00am 一般 | 10月10日(月・祝)11:00am

※定期会員は一般料金の10%割引(22日公演をのぞく)

※12月22日はNHK厚生文化事業団主催のチャリティーコンサートです。定期会員の先行発売、割引はありません。

WEBチケットN響(手数料無料)

チケットのご予約はスマートフォンやPCから、
座席を選んで簡単にチケットが確保できる「WEBチケットN響」が便利です。



お問い合わせ:N響ガイド TEL (03) 5793-8161 NHK厚生文化事業団 TEL (03) 3476-5955 (22日公演のみ)

※ ユースチケットはN響ガイドにお電話でお申し込みください。感染症予防対策のため、事前に年齢確認のための登録手続きが必要になります(N響ホームページをご覧ください)

※ 定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※ N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。

※ やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

※ チケットのご購入・ご来場の際には、N響ホームページに掲載の「感染症予防対策についてのご案内」を必ずお読みください。

各地の公演

9/24(土) 2:00pm | NHK交響楽団 & ファビオ・ルイージ[指揮] 首席指揮者就任記念

所沢市民文化センター ミューズ アークホール

指揮:ファビオ・ルイージ ヴァイオリン:ジェームズ・エーネス

ベートーヴェン/ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61

ブラームス/交響曲 第2番 二長調 作品73

主催:(公財)所沢市文化振興事業団 お問い合わせ:ミューズチケットカウンター TEL (04) 2998-7777

**9/25(日) 5:00pm | 開館25周年記念公演 ファビオ・ルイージ首席指揮者就任記念
NHK交響楽団 ヴァイオリン:ジェームズ・エーネス**

ハーモニーホールふくい 大ホール

出演者・曲目は9月24日と同じ

主催:(公財)福井県文化振興事業団 お問い合わせ:ハーモニーホールふくいチケットセンター TEL (0776) 38-8282

10/1(土) 5:00pm | 市川市文化会館リニューアルオープン記念 NHK交響楽団 市川公演

市川市文化会館 大ホール

指揮:アレクサンダー・リープライヒ ピアノ:小菅 優

モーツァルト/歌劇「フィガロの結婚」序曲

ベートーヴェン/ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」

モーツァルト/交響曲 第41番 ハ長調 K. 551「ジュピター」

主催:(公財)市川市文化振興財団 お問い合わせ:市川市文化会館 TEL (047) 379-5111

10/2(日) 2:00pm | NHK交響楽団 アレクサンダー・リープライヒ(指揮) 小菅 優(ピアノ)

埼玉会館 大ホール

出演者・曲目は10月1日と同じ

主催:(公財)埼玉県芸術文化振興財団 お問い合わせ:SAFチケットセンター TEL (0570) 064-939

10/9(日) 3:00pm | 第10回 NHK交響楽団 いわき定期演奏会

いわき芸術文化交流館アリオス 大ホール

指揮:サッシャ・ゲッツェル ピアノ:牛田智大

グリーグ/「ペール・ギュント」組曲 第1番 作品46—「朝」

グリーグ/ピアノ協奏曲 イ短調 作品16

シベリウス/交響曲 第2番 二長調 作品43

主催:いわき芸術文化交流館アリオス お問い合わせ:アリオスチケットセンター TEL (0246) 22-5800

10/31(日) 7:00pm | NHK音楽祭2022

NHK ホール

指揮:バプロ・エラス・カサド
ラヴェル／組曲「クープランの墓」
マーラー／交響曲 第5番 嬰ハ短調

主催:NHK/NHKプロモーション 共催:NHK交響楽団 お問い合わせ:NHKプロモーション音楽祭係 TEL (03) 3468-7736

11/3(木祝) 5:00pm | 横浜みなとみらいホールリニューアル記念事業
井上道義指揮 NHK交響楽団 藤木大地(カウンターテナー)

横浜みなとみらいホール 大ホール

指揮:井上道義 カウンターテナー:藤木大地 オルガン:近藤 岳
J. シュトラウス2世／ワルツ「南国のぼら」作品388
マーラー／リュッケルトによる5つの歌
サン・サーンス／交響曲 第3番 ハ短調 作品78(オルガンつき)

主催:横浜みなとみらいホール(公財)横浜市芸術文化振興財団) お問い合わせ:横浜みなとみらいホール仮事務所チケットセンター TEL (045) 682-2000

11/7(日) 7:00pm | 第179回 NTT東日本 N響コンサート

東京オペラシティ コンサートホール

指揮:下野竜也 ピアノ:小林愛実
ベートーヴェン／序曲「コリオラン」作品62
ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第1番 ハ長調 作品15
ベートーヴェン／交響曲 第5番 ハ短調 作品67「運命」

主催:NTT東日本 お問い合わせ:NHKプロモーション TEL (03) 5790-6423

11/26(土) 4:00pm | NHK交響楽団演奏会 大阪公演

NHK大阪ホール

指揮:レナード・スラットキン ヴァイオリン:レイ・チェン
ヴォーン・ウィリアムズ／「富める人とラザロ」の5つのヴァリエーション
メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64
ヴォーン・ウィリアムズ／交響曲 第5番 二長調

主催:NHK大阪放送局/NHK交響楽団 お問い合わせ:NHK大阪ホールNHKイベントガイド TEL (06) 6947-5000

11/27(日) 4:00pm | 福岡シンフォニーホールリニューアル記念事業 NHK交響楽団 特別演奏会
福岡シンフォニーホール

出演者・曲目は11月26日と同じ

主催:(公財)アクロス福岡、「福岡・音楽の秋」実行委員会 お問い合わせ:アクロス福岡チケットセンター TEL (092) 725-9112

1/9(月)祝 3:00pm | ニューイヤーコンサート NHK交響楽団 上田公演

サントミュージゼ 大ホール

指揮:沼尻竜典 ソプラノ:砂川涼子* テノール:宮里直樹**
R. シュトラウス / 歌劇「カプリッチョ」—六重奏(弦楽合奏版)、歌劇「ばらの騎士」組曲
J. シュトラウス2世 / 喜歌劇「こうもり」序曲、喜歌劇「ヴェネチアの一夜」作品411—「さあゴンドラにお乗り」**
レハール / 喜歌劇「ジュディッタ」—「私の唇は熱いキスをする」*
ヨーゼフ・シュトラウス / ワルツ「天体の音楽」作品235
レハール / 喜歌劇「ほほえみの国」—「きみはわが心のすべて」**
ジーツィンスキ / わが夢の街ウィーン*
J. シュトラウス2世 / ワルツ「美しく青きドナウ」作品314
レハール / 喜歌劇「メリー・ウイダー」—二重唱「とざした唇に」* **

主催:上田市(上田市交流文化芸術センター) / 上田市教育委員会 お問合せ:上田市交流文化芸術センター TEL (0268) 27-2000

2/19(日) 3:00pm | NHK交響楽団定期演奏会(愛知県芸術劇場シリーズ)

愛知県芸術劇場 コンサートホール

指揮:ヤクブ・フルシャ ピアノ:ピョートル・アンデルシェフスキ*
ドヴォルザーク / 序曲「フス教徒」作品67
シマノフスキ / 交響曲 第4番 作品60「協奏交響曲」*
ブラームス / 交響曲 第4番 ホ短調 作品98

主催:愛知県芸術劇場 / NHK名古屋放送局 お問合せ:愛知県芸術劇場 TEL (052) 211-7552

3/12(日) 2:30pm | NHK交響楽団 厚木公演

厚木市文化会館 大ホール

指揮:ケリリン・ウィルソン ヴァイオリン:HIMARI
チャイコフスキー / イタリア奇想曲 作品45
パガニーニ / ヴァイオリン協奏曲 第1番 二長調 作品6
プロコフィエフ / バレエ「ロメオとジュリエット」組曲 第2番

主催:(公財)厚木市文化振興財団 お問合せ:厚木市文化会館チケット予約センター TEL (046) 224-9999

オーチャード定期

Bunkamura オーチャードホール

10/8(土) 3:30pm

出演者・曲目は10月9日と同じ

1/8(日) 3:30pm

出演者・曲目は1月9日と同じ

3/11(土) 3:30pm

出演者・曲目は3月12日と同じ

主催・お問合せ:Bunkamura TEL (03) 3477-3244

特別支援・特別協力・賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 吉田淳一
株式会社 みずほ銀行	頭取 加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 Christian Wiedmann
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 中田卓也
株式会社 パレスホテル	代表取締役社長 吉原大介

賛助会員

・ 常陸宮	・ (株)アドバンストオールエフデザイン 代表取締役 田中 進	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長 近藤雄一郎
・ (株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長 佐々木経世	・ SCSK(株) 執行役員 社長 最高執行責任者 當麻隆昭
・ (株)アイシン 取締役社長 吉田守孝	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長 片倉正美	・ (株)NHKアート 代表取締役社長 平田恭佐
・ (株)アインホールディングス 代表取締役社長 大谷喜一	・ (株)井口一世 代表取締役 井口一世	・ (一財)NHK インターナショナル 理事長 黄木紀之
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・ NHK 営業サービス(株) 代表取締役社長 山田哲生
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO 勝木敦志	・ 伊東国際特許事務所 所長 伊東忠重	・ (株)NHK エデュケーショナル 代表取締役社長 荒木美弥子
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有	・ 井村屋グループ(株) 代表取締役会長(CEO) 浅田剛夫	・ (一財)NHK エンジニアリングシステム 理事長 黄木紀之
・ 朝日信用金庫 理事長 伊藤康博	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長 鈴木幸一	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長 松本浩司
・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長 高波博之	・ (株)ウイングツー 代表取締役 福田健二	・ (学)NHK 学園 理事長 篠原朋子
・ アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史		

- ・(株)NHK グローバルメディアサービス
代表取締役社長 | 根本拓也
- ・(一財)NHK サービスセンター
理事長 | 黄木紀之
- ・(株)NHK出版
代表取締役社長 | 土井成紀
- ・(株)NHK テクノロジーズ
代表取締役社長 | 野口周一
- ・(株)NHK ビジネスクリエイティブ
代表取締役社長 | 石原勉
- ・(株)NHK プロモーション
代表取締役社長 | 有吉伸人
- ・(株)NHK文化センター
代表取締役社長 | 田中剛志
- ・(一財)NHK放送研修センター
理事長 | 黄木紀之
- ・(株)NTTドコモ
代表取締役社長 | 井伊基之
- ・(株)NTTファシリティアーズ
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOS ホールディングス(株)
代表取締役社長 社長執行役員
齊藤 猛
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 庄野 道
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組
代表取締役社長 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 柳川 淳
- ・岡崎耕治
- ・カンオ計算機(株)
代表取締役社長 | 櫻尾和宏
- ・鹿島建設(株)
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役社長 | 加藤浩章
- ・角川歴彦
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチャ・エンタテインメント(株)
代表取締役社長 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 | 仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 千田哲也
- ・キッコーマン(株)
取締役名譽会長 | 茂木友三郎
- ・(株)CURIOUS PRODUCTIONS
代表取締役 | 黒川幸太郎
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 半田 充
- ・(株)共同通信会館
代表取締役専務 | 梅野 修
- ・(一社)共同通信社
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)
代表取締役社長 | 磯崎功典
- ・キングレコード(株)
代表取締役 | 村上 潔
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 山田晴彦
- ・黒澤隆史
- ・京王電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
都村智史
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
小林敏也
- ・KDDI(株)
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・京浜急行電鉄(株)
取締役社長 | 川俣幸宏
- ・(医)社団 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)コーポレートディレクション
代表取締役 | 石井光太郎
- ・小林弘侑
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグマクス・ホールディングス
代表取締役社長 | 富村隆一
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社
代表取締役社長 | 廣野真一
- ・(株)小学館
取締役会長 | 相賀昌宏
- ・(株)商工組合中央金庫
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役 | 白川亜弥
- ・新赤坂クリニック
院長 | 松木隆央
- ・信越化学工業(株)
代表取締役会長 | 金川千尋
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役社長 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・住友商事(株)
代表取締役社長執行役員 CEO
兵頭誠之
- ・住友電気工業(株)
社長 | 井上 治
- ・セイコーホールディングス(株)
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学
学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)
取締役社長 | 喜多村樹美男
- ・関彰商事(株)
代表取締役会長 | 関 正夫

- ・(株)セノン
代表取締役 | 小谷野宗靖
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長 CEO | 村松俊亮
- ・損害保険ジャパン(株)
取締役社長 | 白川儀一
- ・第一三共(株)
代表取締役社長 | 眞鍋 淳
- ・ダイキン工業(株)
取締役社長 | 十河政則
- ・大成建設(株)
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・大日コーポレーション(株)
代表取締役社長兼グループCEO
鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株)
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・田中貴金属工業(株)
代表取締役社長執行役員
田中浩一朗
- ・田原 昇
- ・チャンネル銀河(株)
代表取締役社長 | 林田真由
- ・中央日本土地建物グループ(株)
代表取締役社長 社長執行役員
三宅 潔
- ・中外製薬(株)
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・(株)電通
代表取締役社長執行役員 | 樽谷典洋
- ・(株)テンポプリモ
代表取締役 | 中村聡武
- ・(株)TOKAIホールディングス
代表取締役社長 | 鶴田勝彦
- ・東海旅客鉄道(株)
代表取締役社長 | 金子 慎
- ・東急(株)
取締役社長 | 高橋和夫
- ・(株)東急文化村
代表取締役社長 | 中野哲夫
- ・東京海上日動火災保険(株)
取締役社長 | 広瀬伸一
- ・(株)東京交通会館
取締役社長 | 興野敦郎
- ・東信地所(株)
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)
取締役社長 | 根津嘉澄
- ・桐朋学園大学
学長 | 辰巳明子
- ・東邦ホールディングス(株)
代表取締役 | 有働 敦
- ・(株)東北新社
代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・(-財)凸版印刷三幸会
代表理事 | 金子眞吾
- ・トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 | 豊田章男
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)
代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ
代表 | 渡辺蔵人
- ・中山武之
- ・日鉄興和不動産(株)
代表取締役社長 | 今泉泰彦
- ・日東紡績(株)
取締役 代表執行役社長 | 辻 裕一
- ・日本ガイシ(株)
取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本国際放送
代表取締役社長 | 高尾 潤
- ・日本運通(株)
代表取締役社長 | 齋藤 充
- ・日本電気(株)
代表取締役執行役員社長 | 森田隆之
- ・(-財)日本放送協会共済会
理事長 | 谷弘聡史
- ・日本郵政(株)
取締役兼代表執行役社長 | 増田寛也
- ・(株)ニフコ
代表取締役社長 | 柴尾雅春
- ・野村ホールディングス(株)
代表執行役社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック ホールディングス(株)
代表取締役 社長執行役員 グループCEO
楠見雄規
- ・(有)パルフェ
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・東日本電信電話(株)
代表取締役社長 | 澁谷直樹
- ・(株)日立製作所
執行役社長 | 小島啓二
- ・(株)フォトン
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・富士通フロンテック(株)
代表取締役社長 | 川上博亨
- ・古川建築音響研究所
所長 | 古川宣一
- ・(株)朋栄ホールディングス
代表取締役 | 清原慶三
- ・(株)放送衛星システム
代表取締役社長 | 角 英夫
- ・(公)放送文化基金
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)
代表取締役 | 水野雅義
- ・前田工織(株)
代表取締役社長兼COO | 前田尚宏
- ・町田優子
- ・丸紅(株)
代表取締役社長 | 柿木真澄
- ・溝江建設(株)
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・三井住友海上火災保険(株)
代表取締役 | 船曳真一郎
- ・(株)三井住友銀行
頭取 | 高島 誠
- ・三井住友信託銀行(株)
取締役社長 | 大山一也
- ・三菱商事(株)
社長 | 中西勝也
- ・三菱電機(株)
執行役社長 | 漆間 啓
- ・(株)緑山スタジオ・シティ
代表取締役社長 | 難波一弘
- ・三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・三原穂積
- ・(学)武蔵野音楽学園
理事長 | 福井直敬

- ・(株)明治
代表取締役社長 | 松田克也
- ・(株)明電舎
取締役社長 | 三井田 健
- ・(株)目の眼
代表 | 櫻井 恵
- ・(株)モメンタム ジャパン
代表取締役社長 | 三溝広志
- ・森ビル(株)
代表取締役社長 | 辻 慎吾
- ・森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔
- ・矢下茂雄

- ・山田産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸
- ・(株)山野楽器
代表取締役社長 | 山野政彦
- ・(株)ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長 | 押木正人
- ・ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄
- ・米澤文彦
- ・(株)読売広告社
代表取締役社長 | 菊地英之
- ・(株)読売旅行
代表取締役社長 | 坂元 隆

- ・料亭 三長
代表 | 高橋千善
 - ・(株)リンレイ
代表取締役社長 | 鈴木信也
 - ・(有)ルナ・エンタープライズ
代表取締役 | 戸張誠二
 - ・ローム(株)
代表取締役社長 社長執行役員
松本 功
 - ・YKアクロス(株)
代表取締役社長 | 中野健次
- (五十音順、敬称略)

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。
N響主催公演のご鑑賞の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

NHK交響楽団

首席指揮者：ファビオ・ルイーヂ

名誉音楽監督：シャルル・デュトラ

桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者：ウラディーミル・アシュケナージ

名誉指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ

正指揮者：外山雄三、尾高忠明

第1コンサートマスター：篠崎史紀

コンサートマスター：伊藤亮太郎

ゲスト・コンサートマスター：白井 圭

ゲスト・アシスタント・コンサートマスター：郷古 廉

第1ヴァイオリン

青木 調
宇根京子
大鹿由希
□倉富亮太
後藤 康
小林玉紀
高井敏弘
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
○松田拓之
宮川奈々
村尾隆人
○山岸 努
○横島礼理
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

◎大宮臨太郎
◎森田昌弘
木全利行
齋藤麻衣子
嶋田慶子
○白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
○三又治彦
矢津将也
山田慶一

横山俊朗
米田有花

ヴィオラ

◎佐々木 亮
◎村上淳一郎
☆中村翔太郎
小野 聡
小島茂隆
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
御法川雄矢
○村松 龍
山田雄司

チェロ

◎辻本 玲
◎藤森亮一
市 寛也
小島幸法
三戸正秀
中 実徳
○西山健一
○藤村俊介
宮坂拓志
村井 将
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

◎吉田 秀
☆市川雅典
☆西山真二
稲川永示
○岡本 潤
今野 京
佐川裕昭
本間達朗
矢内陽子

フルート

◎甲斐雅之
◎神田寛明
梶川真步
菅原 潤
中村淳二

オーボエ

◎青山聖樹
◎吉村結実
池田昭子
坪池泉美
和久井 仁

クラリネット

◎伊藤 圭
◎松本健司
山根孝司
和川聖也

ファゴット

◎宇賀神広宣
◎水谷上総
佐藤由起
菅原恵子
森田 格

ホルン

◎今井仁志
石山直城
勝俣 泰
木川博史
野見山和子

トランペット

◎菊本和昭
◎長谷川智之
安藤友樹
山本英司

トロンボーン

◎古賀 光
◎新田幹男
池上 亘
黒金寛行
吉川武典

テューバ

池田幸広

ティンパニ

◎植松 透
◎久保昌一

打楽器

石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハープ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉
黒川大亮

ライブラリアン

沖 あかね
木村英代

(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

曲目解説執筆者

加藤浩子(かとうひろこ)

音楽評論家。慶應義塾大学文学部卒業、同大学院博士課程満期退学(音楽史専攻)。主にバッハを中心とする古楽およびオペラについて執筆、講演活動を行うほか、オペラ、音楽ツアーの企画・同行も行う。著書に『オペラで楽しむヨーロッパ史』『ヴェルディ——オペラ変革者の素顔と作品』『バッハ「音楽の父」の素顔と生涯」など多数。

広瀬大介(ひろせ だいすけ)

音楽学者、音楽評論家。青山学院大学教授。日本リヒャルト・シュトラウス協会常務理事・事務局長。著書に『オペラ対訳×分析ハンドブック リヒャルト・シュトラウス／楽劇 サロメ』『リヒャルト・シュトラウス「自画像」としてのオペラ』『帝国のオペラ』など。各種音楽媒体での評論活動のほか、NHK ラジオへの出演、演奏会曲目解説・CDライナーノーツ、オペラ公演・映像の字幕・対訳等への寄稿多数。

堀 朋平(ほりともへい)

国立音楽大学講師。博士(文学)。専門はシューベルトを中心とした19世紀音楽、音楽思想史。著書に『〈フランツ・シューベルト〉の誕生——喪失と再生のオデュッセイ』、訳書にヒンリヒセン著『フランツ・シューベルト——あるリアリストの音楽的肖像』、共訳書にボンス著『ベートーヴェン症候群——音楽を自伝として聴く』など。住友生命いずみホール音楽アドバイザー。

(五十音順、敬称略)

Information

首席就任 第2ヴァイオリン首席 森田昌弘(もりた まさひろ) 2022年7月1日付で就任。

新入団 ヴァイオリン 村尾隆人(むらおり ゆうと) 2022年7月1日付で入団。
ヴィオラ 三国レイチエル由依(みくに れいちえる ゆい) 2022年7月1日付で入団。

お詫びと訂正

本誌『Philharmony』5月号にて以下の通り誤りがございました。
お詫び申し上げますとともに、以下のとおり訂正をさせていただきます。

4頁アリオーナ・バーエワ氏の出演者プロフィール1行目
[誤] アルトマイ
[正] アルマトイ

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の
QRコードを読み取る。
またはURLを入力
[https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Yuzo Toyama, Tadaaki Otaka

First Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki

Concertmaster: Ryotaro Ito

Guest Concertmaster: Kei Shirai

Guest Assistant Concertmaster: Sunao Goko

1st Violins

- Shirabe Aoki
Kyoko Une
Yuki Oshika
□ Ryota Kuratomi
Ko Goto
Tamaki Kobayashi
Toshihiro Takai
Yuki Naoi
Yumiko Nakamura
Takao Furihata
○ Hiroyuki Matsuda
Nana Miyagawa
Ryuto Murao
○ Tsutomu Yamagishi
○ Masamichi Yokoshima
○ Koichi Yokomizo

2nd Violins

- ◎ Rintaro Omiya
◎ Masahiro Morita
Toshiyuki Kimata
Maiko Saito
Keiko Shimada
○ Atsushi Shirai
○ Akiko Tanaka
Kirara Tsuboi
Yosuke Niwa
Kazuhiko Hirano
Yoko Funaki
Kenji Matano
○ Haruhiko Mimata
Masaya Yazu
Yoshikazu Yamada
Toshiro Yokoyama
Yuka Yoneda

Violas

- ◎ Ryo Sasaki

- ◎ Junichiro Murakami
☆ Shotaro Nakamura
Satoshi Ono
Shigetaka Obata
□ Gentaro Sakaguchi
Mayumi Taniguchi
Hiroto Tobisawa
○ Hironori Nakamura
Naoyuki Matsui
Rachel Yui Mikuni
Yuya Minorikawa
○ Ryo Muramatsu
Yuji Yamada

Cellos

- ◎ Rei Tsujimoto
◎ Ryoichi Fujimori
Hiroya Ichi
Yukinori Kobatake
Masahide Sannoh
Miho Naka
○ Ken'ichi Nishiyama
○ Shunsuke Fujimura
Hiroshi Miyasaka
Yuki Murai
○ Shunsuke Yamanouchi
Masako Watanabe

Contrabasses

- ◎ Shu Yoshida
☆ Masanori Ichikawa
☆ Shinji Nishiyama
Eiji Inagawa
○ Jun Okamoto
Takashi Konno
Hiroaki Sagawa
Tatsuro Honma
Yoko Yanai

Flutes

- ◎ Masayuki Kai
◎ Hiroaki Kanda
Maho Kajikawa
Jun Sugawara
Junji Nakamura

Oboes

- ◎ Satoki Aoyama
◎ Yumi Yoshimura
Shoko Ikeda
Izumi Tsuboike
Hitoshi Wakui

Clarinets

- ◎ Kei Ito
◎ Kenji Matsumoto
Takashi Yamane
Seiya Wakawa

Bassoons

- ◎ Hironori Ugajin
◎ Kazusa Mizutani
Yuki Sato
Keiko Sugawara
Itaru Morita

Horns

- ◎ Hitoshi Imai
Naoki Ishiyama
Yasushi Katsumata
Hiroshi Kigawa
Kazuko Nomiya

Trumpets

- ◎ Kazuaki Kikumoto

- ◎ Tomoyuki Hasegawa
Tomoki Ando
Eiji Yamamoto

Trabones

- ◎ Hikaru Koga
◎ Mikio Nitta
Ko Ikegami
Hiroyuki Kurogane
Takenori Yoshikawa

Tuba

- Yukihiro Ikeda

Timpani

- ◎ Toru Uematsu
◎ Shoichi Kubo

Percussion

- Tatsuya Ishikawa
Hidemi Kuroda
Satoshi Takeshima

Harp

- Risako Hayakawa

Stage Manager

- Masaya Tokunaga
Daisuke Kurokawa

Librarian

- Akane Oki
Hideyo Kimura

(◎ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector)

PROGRAM

A

Concert No.1962

NHK Hall

September

10 (Sat) 6:00pm

11 (Sun) 2:00pm

conductor	Fabio Luisi
soprano	Hibla Gerzmava
mezzo soprano	Olesya Petrova
tenor	René Barbera
bass	Kwangchul Youn
chorus	New National Theatre Chorus (Kyohei Tomihira, chorus master)
concertmaster	Fuminori Maro Shinozaki

Chief Conductor Fabio Luisi Inauguration Concert

Giuseppe Verdi

Messa da requiem [84']

- I Requiem et Kyrie (Chorus, Soloists)
- II Dies irae
1. Dies irae (Chorus)
 2. Tuba mirum (Chorus, Bass)
 3. Liber scriptus (Mezzo soprano, Chorus)
 4. Quid sum miser (Soprano, Mezzo soprano, Tenor)
 5. Rex tremendae (Chorus, Soloists)
 6. Recordare (Soprano, Mezzo soprano)
 7. Ingemisco (Tenor)
 8. Confutatis (Bass, Chorus)
 9. Lacrimosa (Soloists, Chorus)

- III Offertorio (Soloists)
- IV Sanctus (Chorus I, II)
- V Agnus Dei (Soprano, Mezzo soprano, Chorus)
- VI Lux aeterna (Mezzo soprano, Tenor, Bass)
- VII Libera me (Soprano, Chorus)

- There will be no intermission in this concert.
- All performance durations are approximate.

Fabio Luisi, conductor



Fabio Luisi hails from Genoa. He is the Principal Conductor of the Danish National Symphony Orchestra and the Music Director of the Dallas Symphony Orchestra. From September 2022, he assumed the position of Chief Conductor of the NHK Symphony Orchestra, Tokyo.

Fabio Luisi was Principal Conductor of the Metropolitan Opera in New York, General Music Director of the Opernhaus Zürich, Principal Conductor of the Wiener Symphoniker, as well as General Music Director of the Staatskapelle Dresden and the Sächsische Staatsoper, Artistic Director and Principal Conductor of the MDR Sinfonieorchester Leipzig, and Music Director of the Orchestre de la Suisse Romande. He is Music Director of the Festival della Valle d'Itria in Martina Franca (Apulia) and has appeared as guest conductor with numerous renowned ensembles, including the Philadelphia Orchestra, the Cleveland Orchestra, the Münchener Philharmoniker, the Filarmonica della Scala, the London Symphony Orchestra, the Concertgebouworkest, and the Saito Kinen Orchestra, as well as with various prominent opera orchestras.

Important recordings include Verdi, Bellini, Schumann, Berlioz, Rachmaninov, Rimsky-Korsakov, Frank Martin, and Franz Schmidt, the largely forgotten Austrian composer. In addition, he has recorded various symphonic poems by Richard Strauss, and a lauded reading of Bruckner's Symphony No. 9 with the Staatskapelle Dresden. His recordings of Wagner's *Siegfried* and *Götterdämmerung* with the Metropolitan Opera Orchestra won Grammy awards.

Hibla Gerzmava, soprano



Hibla Gerzmava, blessed with a rich and bright voice and colorful expressiveness, is from Abkhazia which lies on the eastern coast of the Black Sea. Her name Hibla means golden eyes in the Abkhazian language and as suggested, she has a golden voice which captures the hearts of audiences. She graduated from the Moscow Conservatory in 1994, and was the first female singer to win the Grand Prix at the International

Tchaikovsky Competition in 1994. She has appeared at the world's major opera houses including the Mariinsky Theatre, the Royal Opera House, the Metropolitan Opera House, the Wiener Staatsoper and the Opéra de Paris. In 2017, she made her debut at La Scala, Milan, and at Sächsische Staatskapelle Dresden in 2018, thus the momentum of her activities is showing no sign of slowing down.

On the Mariinsky Theatre's 2011 Japan tour she participated in, she sang the role of Liù in *Turandot* which was staged at NHK Hall, Tokyo, and garnered the highest praise. As she has sung Verdi's *Requiem* at Arena di Verona in 2021, how she will perform the work with her first collaboration with the NHK Symphony Orchestra will be something we very much look forward to.

Olesya Petrova, mezzo soprano



Olesya Petrova, who has been a soloist of the Mikhailovsky Theatre since 2016 is a mezzo soprano with a soft and warm tone, and has sung the roles of Ulrika in *Un ballo in maschera*, Santuzza in *Cavalleria Rusticana*, and the Countess in *The Queen of Spades* at the theatre. She made her debut at the Metropolitan Opera House in 2014 singing *Andrea Chénier*, a theatre she often returns to, and her performance as Federica in *Luisa Miller* in 2018 directed by Elijah Moshinsky and transmitted live is still fresh in our memory. The opera houses where she has sung include the Opernhaus Zürich, the Hamburgische Staatsoper, the Teatro Real of Madrid and the Gran Teatro del Liceu in Barcelona. In 2018, she made her debut at the Bolshoi Theatre, singing the role of Polina in a new production of *The Queen of Spades*.

She has also appeared in orchestral concerts in Russia, and has won artistic acclaim especially for her singing of Mozart's *Requiem* and *Coronation Mass* as well as *Stabat Mater* by Pergolesi, therefore, we have a great expectation toward her performance of Verdi's *Requiem* under the baton of Fabio Luisi, in her first appearance with the NHK Symphony Orchestra.

René Barbera, tenor



American tenor René Barbera has won high artistic acclaim for his unconstrained high-range voice and outstanding ornamentation technique as displayed in the role of Count Almaviva in Rossini's *The Barber of Seville* staged at Tokyo's New National Theatre in February 2020. He was the winner of the Metropolitan Opera National Council Auditions in 2008, and was the first-ever sole recipient of all three top awards of the Operalia Competition established by Plácido Domingo in 2011. While he specializes in bel canto operas by Rossini and Donizetti, he sang the title role of Mozart's *Idomeneo* for the first time at Teatro Massimo in Palermo in 2019, and has received high recognition. He continuously appears at the world's notable opera houses such as La Scala, Milan and the Wiener Staatsoper, and is attracting a great deal of attention worldwide at present.

He performed Verdi's *Requiem* on tour together with musicAeterna led by Teodor Currentzis in cities including Paris, Brussels, Cologne, Hamburg and Vienna. He will be appearing as a soloist of *Requiem* in his first collaboration with the NHK Symphony Orchestra, therefore, we are hoping to fully enjoy the singing voice of Mr. Barbera, which has been praised by the world.

Kwangchul Youn, bass



Korean bass singer Kwangchul Youn has acquired a wide range of repertoire as a member of the ensemble of the Staatsoper Berlin from 1993 to 2004, and in 2018 he was named “Berliner Kammersänger.” Having Wagner and Verdi as his main repertoire, he sang from *Tristan und Isolde* and *Die Meistersinger von Nürnberg* in his first appearance in the NHK Symphony Orchestra’s subscription concert in 2015 under

Sebastian Weigle. Mr. Youn has been performing in the world’s major opera houses, and in the 2021–22 season, he sang the role of Rocco in *Fidelio* at the Staatsoper Berlin, Hunding in *Die Walküre* at the Wiener Staatsoper and Gurnemanz in *Parsifal* at the Opéra de Paris, while frequently singing with orchestras including the Berliner Philharmoniker, the Wiener Philharmoniker, the Orchestra dell’Accademia Nazionale di Santa Cecilia, the Orchestra della Scala di Milano and the WDR Rundfunkorchester Köln (presently the WDR Sinfonieorchester Köln).

His coming appearance with the NHK Symphony Orchestra can be regarded as a rare opportunity to hear the first-rate performances of Asia’s outstanding bass singer once again.

New National Theatre Chorus, chorus

The New National Theatre Chorus launched its activities in April 1998 as a chorus group exclusive to the New National Theatre which was inaugurated in October, 1997. More than 100 members of the mixed chorus are selected through strict auditions. Each member has a high capability of singing and acting skills, and as an ensemble, powerful performances and beautiful harmonization have been highly regarded. Its proficiency, polished through its experience of working for wide variety of operatic works presented at the New National Theatre, has received high acclaim from operatic singers, conductors and stage directors. The chorus has also frequently performed with orchestras, including the Yomiuri Nippon Symphony Orchestra, the Tokyo Philharmonic Orchestra, the Tokyo Symphony Orchestra, as well as the Concertgebouworkest under Mariss Jansons, the Berlin Philharmoniker under Simon Rattle and the Cleveland Orchestra under Franz Welser-Möst. The chorus has worked with the NHK Symphony Orchestra more than 20 times, and they together enjoy great rapport on their collaboration.

[Hibla Gerzmava, Olesya Petrova, René Barbera, Kwangchul Youn, New National Theatre Chorus by Naoko Murota, music critic]



10 & 11. SEPT. 2022

Giuseppe Verdi (1813–1901)

Messa da requiem

The Italian composer Verdi devoted his life to pursue the basics of the opera, eager to naturally express human emotions by means of singing. Having a bent for theater and a deep insight into human psychology, he left us twenty-six operas to personify a golden age of operatic history. The Requiem—or Mass for the dead—is, on the other hand, a vocal work for a funeral service offered in the Catholic Church. With a setting of liturgic Latin text, it is sung to pray for the peaceful rest of the deceased’s soul.

By and large the opera and the Requiem are grounded on quite different aesthetics, but our Italian opera master realized an impressive marriage of the two in his Requiem. It is well known to be bitterly criticized by some of his contemporaries on grounds of its excessively dramatic and glowing effects for a sacred music. The conductor Hans von Bülow famously sneered at it commenting “opera in ecclesiastical dress.” However, we should sufficiently consider that, to begin with, the creative urge and purpose Verdi had regarding it were much more personal and earthlier than religious.

In 1868, he wrote *Libera me* for a collaborative Requiem with a dozen colleagues in homage to the departed Italian idol Gioachino Rossini, but it remained unperformed because of premiere-related troubles. Later in 1873, Verdi thought of a musical tribute knowing about the death of Alessandro Manzoni, a great patriotic Italian man of letters the composer revered. And hence, he took the score of *Libera me* for Rossini from his drawer to complete his Requiem. It was premiered the next year for the first anniversary of Manzoni’s death.

Full of dramatic contrasts, this colossal work is in seven sections. The opening section commences with a tranquil chorus praying for the repose of the dead. The section II *Dies irae* (*Day of wrath*) is opened by a tempestuous chorus with the brass and bass drum inspiring dread of the Last Judgment, then next comes *Tuba mirum* (*The trumpet, scattering its wondrous sound*) introduced by the theatric fanfare with offstage and onstage trumpeters interplaying. The placid section III *Offertorio* (*Offertory*) is sung by only soloists, while the joyous section IV *Sanctus* (*Holy, Lord God of Hosts*) is a closely woven fugue for the eight-part chorus. Following the restful section V *Agnus Dei* (*Lamb of God, who takes away the world’s sins*) and the mystic section VI *Lux aeterna* (*May eternal light shine upon them*), the final section *Libera me* (*Deliver me, Lord, from eternal death*) begins with a tense, expressive solo by soprano. After fearful *Dies irae* returns and then a magnificent fugue reaches its culmination, *the Requiem* comes to a reverent end with the soprano and chorus restating *Libera me*.

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

B

Concert No.1964

Suntory Hall

September

21 (Wed) 7:00pm

22 (Thu) 7:00pm

conductor

Fabio Luisi | for a profile of Fabio Luisi, see p. 57

violin

James Ehnes

concertmaster

Fuminori Maro Shinozaki

Chief Conductor Fabio Luisi Inauguration Concert

Ludwig van Beethoven
Violin Concerto D Major Op. 61

[42']

I Allegro ma non troppo

II Larghetto

III Rondo: Allegro

— intermission (20 minutes) —

Johannes Brahms
Symphony No. 2 D Major Op. 73

[47']

I Allegro non troppo

II Adagio non troppo

III Allegretto grazioso (Quasi andantino)

IV Allegro con spirito

- All performance durations are approximate.

Artist Profile

James Ehnes, violin



© Ben Eshvaga

James Ehnes, born in Brandon, Manitoba, located in the middle of Canada, began his violin studies at the age of five, and went into tutelage of the renowned Canadian violinist Francis Chaplin at the age of nine. He made a solo debut with the Orchestre symphonique de Montréal when he was thirteen. He studied at the Julliard School then launched his career internationally. In recent years, he has worked with the

Gewandhausorchester Leipzig, the Münchner Philharmoniker, the London Symphony Orchestra, the San Francisco Symphony, to name a few.

Being an active chamber musician, he formed the Ehnes Quartet in 2010 and serves as Artistic Director of the Seattle Chamber Music Society. He has a wide discography from Bach to contemporary composers such as American composer Aaron Kernis, and has recorded the complete Beethoven violin sonatas with Andrew Armstrong. He plays the "Marsick" Stradivarius of 1715.

B

21 & 22, SEPT. 2022

Since 1998, he has frequently worked with the NHK Symphony Orchestra in 2000, 2002, 2004, 2006 and 2015. On this appearance, he will play Beethoven's Violin Concerto which he performed under Paavo Järvi back in 2002. Bearing in mind that he is a violinist who has bloomed his talent at an early age, and now has reached maturity, we will certainly enjoy the way he will present the work to his audience.

[James Ehnes by Haruo Yamada, music critic]

Program Notes | Kumiko Nishi

Ludwig van Beethoven (1770–1827)

Violin Concerto D Major Op. 61

In music history, not a few masterpieces have been unfavorably received at the outset, because of being ahead of the time and/or being first performed unideally. And Beethoven's Violin Concerto was a perfect example of that.

Op. 61 is the only violin concerto completed by Beethoven apart from two short Romances for violin and orchestra. It dates from his exceptionally productive period when the Fourth and Fifth Symphonies were written. It was Franz Clement who played the solo part for the premiere in 1806. Beethoven reportedly finished writing it barely in time for the concert and the violinist played it mostly at sight. It was since hardly programmed during the composer's lifetime. After his death, in 1844, the legendary violinist Joseph Joachim, well-known today as Brahms' best friend, performed it under the baton of Felix Mendelssohn. This successful event was the impetus for the revival of the piece.

The beginning of Op. 61 with timpani solo, unwonted at the time, already tells us why this music perplexed people at the premiere. The unusual length of the sonata-form first movement might have surprised them, too, and they had to wait for as long as four minutes until the leading role—violin solo—entered playing the melodious first theme. The slow movement is an equable variation ended by the soloist's brief cadenza (improvisatory passage without orchestra). Without pause, the lively final movement in rondo form is started by the solo violin stating instantly the folkish, recurrent main theme.

Johannes Brahms (1833–1897)

Symphony No. 2 D Major Op. 73

Traveling has inspired composers throughout time. In the case of Brahms originally from northern Germany, he was often away from his home in Vienna to spend several summers in picturesque resorts. And fortunately for music-lovers, he was productive on vacation.

He wrote the Second Symphony during the summer of 1877 in Pörschach, a scenic lakeside town in southern Austria. Unlike his dramatic First Symphony in C minor, the Second in D major—the key of Beethoven's Violin Concerto—has broadly a relaxed cheerful mood reminiscent of his sunny retreat. While his First shares common features with Beethoven's Fifth, Brahms' Second is often linked to his senior's Sixth *Pastorale* because of its

serene and tuneful character. Nevertheless, the Second shows his typical melancholic tones in spots and a minute motivic development as described below.

Strain your ears for the cellos and basses introducing a “motto” (brief motif) with three notes (D–C#–D) when the sonata-form first movement starts. This musical germ would recur in various shapes and characters through the whole piece. The horns immediately give the pastoral first theme and later the cellos sing the flowing second theme resembling the famous “Brahms’ Lullaby” (*Wiegenlied* Op.49-4). The next movement, opened by the wistful theme with the cellos, has a pensive, melodious nature. The third movement has a symmetric A–B–A–B–A structure. The courtly section A in triple time reminds us of the minuet dance. Its main theme given by the oboe is based on the reversed “motto.” In contrast, the section B has a scherzo-like lively character. The smiling finale in sonata form is the most optimistic music Brahms penned. The mumbling first theme and the singing second theme are both derived from the motto. The brass section, including a tuba, livens up the brilliant coda to close the symphony.

Following the successful 1876 premiere of Brahms’ First, this Second was first performed in 1877 meeting with an enthusiastic reception. That must have been a load off his mind as the self-critical composer had spent over twenty years to complete his very first symphony standing in awe of Beethoven.

B

21 & 22, SEPT. 2022

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 60

PROGRAM

C**Concert No.1963****NHK Hall****September****16 (Fri) 7:30pm****17 (Sat) 2:00pm**

conductor **Fabio Luisi** | for a profile of Fabio Luisi, see p. 57**oboe** **Eva Steinaa****concertmaster** **Sunao Goko**

[Pre-concert Chamber Music – Exclusive to Program C]

Friday 16th from 6:45pm / Saturday 17th from 1:15pm

Rei Tsujimoto(vc.), Hiroya Ichi(vc.), Miho Naka(vc.), Masako Watanabe(vc.)

Joseph Jongen / Two Pieces for 4 Cellos Op. 89—*Légende, Danses*

* You may enter and leave as you please during the performance. * Enjoy chamber music from your own seat.

Chief Conductor Fabio Luisi Inauguration Concert**Richard Strauss*****Don Juan*, symphonic poem****Op. 20 [17']****Richard Strauss****Oboe Concerto D Major [25']**

I Allegro moderato

II Andante

III Vivace—Allegro

Richard Strauss**Suite from the Opera*****Der Rosenkavalier* [22']**

- There will be no intermission in this concert.

- All performance durations are approximate.

Artist Profile

Eva Steinaa, oboe

Eva Steinaa is a Danish oboist. She was born in 1993, started learning oboe at the Copenhagen Music School at the age of nine, and at the age of fifteen, went under the tutelage of Joakim Dam Thomsen, solo oboe player in the Royal Orchestra, at Sankt Annæ High School. Then at the age of seventeen, she started to study at the Royal Danish Academy of Music. She won the gold medal in Berlingske's Classical

Music Competition in 2009, and the second prize at the Øresund Soloist Competition. She became an oboist at the South Jutland Symphony Orchestra in 2013, and in the following year,

became Principal Oboe of the Danish Radio Symphony Orchestra, the position she has held to date, where Fabio Luisi is Music Director. While performing as a solo oboist, she is also active in chamber music performances, and particularly in duo performances with her twin sister and flutist Maria Steinaa. The work she has selected for her first appearance with the NHK Symphony Orchestra is Oboe Concerto by R. Strauss. The focus of her performance is how she will express the tone of this work, which is said to have described the composer's mental state in his closing years, under the baton of Fabio Luisi whom she has been closely associated with.

[Eva Steinaa by Motoyuki Teranishi, music critic]

Program Notes | Kumiko Nishi

Richard Strauss (1864–1949)

***Don Juan*, symphonic poem Op. 20**

A long-lived and prolific composer, Strauss particularly excelled in any programmatic music. And the symphonic poem, considered an invention by Franz Liszt, was a top-rated orchestral genre among Romantics like Strauss to fully explore possibilities of musical narrativity and descriptiveness without being bound to Classical strict forms.

Strauss was still in his mid-twenties when he wrote the symphonic poem *Don Juan* based upon a poem by Nikolaus Lenau about this legendary womanizer of Spanish origin. We are amazed at how exactly and brilliantly the composer's pen portrays the fearless, passionate libertine with an opening avalanche of dashing and leaping melodies. These primary themes of *Don Juan* would recur in this flexible sonata-form music. The following materials describe the hero's unsatisfied pursuit of the ideal womankind, such as the violin solo evoking a lady he encounters and then the oboe solo hinting his love affair with another. After a dramatic silence, the gloomy E-minor ending suggests that he meets his fate despairingly.

Richard Strauss

Oboe Concerto D Major

Strauss' long musical journey was not stylistically constant. Late-Romantic *Don Juan* (1888) brought him a reputation, before he joined the avant-garde with sensational operas *Salome* (1905) and *Elektra* (1908) propelling musical dissonance. Soon after, he broke off from this radicalism to stay with reactionary late-Romanticism for the rest of his career.

Written in his latest years in 1945, the Oboe Concerto was Strauss' first concerto for the instrument, and he had written only three concertos before that. The reason that he came to create one of the important oboe concertos alongside Mozart's was his encounter with an American. This soldier, who was a professional oboist in peacetime, visited Strauss just after World War II and asked him whether he had ever thought of writing an oboe concerto. Inspired by the question, he began to sketch one after a while.

This Concerto is often referred to be Mozartian in virtue of its graceful melodies, transparent orchestration and Classical structure. The three movements are performed

C

16 & 17, SEPT., 2022

without pause, which makes this pastoral but technically and physically difficult piece more demanding for the oboist. It begins with cellos introducing a wiggling four-note melody which is a key motif of the first movement. The dreamy slow movement ends with the oboe cadenza on the strings' pizzicatos. The merry finale in duple time has a short cadenza followed by a gracious section in waltz time.

Richard Strauss

Suite from the Opera *Der Rosenkavalier*

Der Rosenkavalier was a turning point in Strauss' stylistic transition. As opposed to the grisly, almost atonal predecessor *Elektra*, it was viewed as a Mozartian comedy by the composer and his librettist Hugo von Hofmannsthal. This, so to say, "*The Marriage of Figaro* wearing the late-Romantic music" incited contemporary critics to accuse Strauss of regression, while its 1911 premiere was an unexampled success among the audience.

The opera is set in 18th-century Vienna. The title refers to an imaginary noble custom for a suitor to send a messenger with a silver rose to the bride-to-be. The center of the bittersweet story is Marschallin, a marshal's wife, having an affair with the teenage Count Octavian. He, by recommendation of his mistress, becomes a Rose Cavalier for Baron Ochs and presents the rose to beautiful young Sophie. Octavian and Sophie fall in love with each other at first sight. Marschallin, heartbroken, has the grace to accept the reality.

The orchestral suite performed today is the one prepared anonymously authorized by Strauss himself for its 1945 publication. Without any break, it appears to be a symphonic poem freely treating some highlights and waltzes from the original. The suite starts with a famous lovemaking part from the opera with the youthful ascending theme of Octavian (horns) and the refined descending theme of Marschallin (strings) entangled. Later we hear the recurring glittering motif of the silver rose played mainly by flutes, harps and celesta.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 60

C

16 & 17, SEPT. 2022

The Subscription Concerts Program 2022–23

2022
09

A	Concert No. 1962	Chief Conductor Fabio Luisi Inauguration Concert Verdi <i>Messa da requiem</i>	Ordinary	Youth
	September 10 (Sat) 6:00pm 11 (Sun) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor Hibla Gerzmava, soprano Olesya Petrova, mezzo soprano René Barbera, tenor Kwangchul Youn, bass New National Theatre Chorus, chorus	S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,000 E 3,300	S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,200 D 2,500 E 1,600
	NHK Hall			
B	Concert No. 1964	Chief Conductor Fabio Luisi Inauguration Concert Beethoven Violin Concerto D Major Op. 61 Brahms Symphony No. 2 D Major Op. 73	Ordinary	Youth
	September 21 (Wed) 7:00pm 22 (Thu) 7:00pm	Fabio Luisi, conductor James Ehnes, violin	S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800
	Suntory Hall			
C	Concert No. 1963	Chief Conductor Fabio Luisi Inauguration Concert R. Strauss <i>Don Juan</i> , symphonic poem Op. 20 R. Strauss Oboe Concerto D Major R. Strauss Suite from the Opera <i>Der Rosenkavalier</i>	Ordinary	Youth
	September 16 (Fri) 7:30pm 17 (Sat) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor Eva Steinaa, oboe	S 7,400 A 6,500 B 5,200 C 4,200 D 3,200 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800
	NHK Hall			

2022
10

A	Concert No. 1965	Mahler Symphony No. 9 D Major	Ordinary	Youth
	October 15 (Sat) 6:00pm 16 (Sun) 2:00pm	Herbert Blomstedt, conductor	S 9,800 A 8,400 B 7,000 C 5,400 D 4,400 E 2,800	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800 E 1,400
	NHK Hall			
B	Concert No. 1967	Grieg Piano Concerto A Minor Op.16 Nielsen Symphony No. 3 Op. 27, <i>Sinfonia espansiva</i>	Ordinary	Youth
	October 26 (Wed) 7:00pm 27 (Thu) 7:00pm	Herbert Blomstedt, conductor Olli Mustonen, piano	S 9,800 A 8,400 B 7,000 C 5,400 D 4,400	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800
	Suntory Hall			
C	Concert No. 1966	Schubert Symphony No. 1 D Major D. 82 Schubert Symphony No. 6 C Major D. 589	Ordinary	Youth
	October 21 (Fri) 7:30pm 22 (Sat) 2:00pm	Herbert Blomstedt, conductor	S 7,400 A 6,500 B 5,200 C 4,200 D 3,200 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800
	NHK Hall			

2022
11

A	Concert No. 1968	Ifukube <i>Sinfonia Tapkaara</i> Shostakovich Symphony No. 10 E Minor Op. 93	Ordinary	Youth
	November 12 (Sat) 6:00pm 13 (Sun) 2:00pm	Michiyoshi Inoue, conductor	S 8,900 A 7,400 B 5,800 C 4,700 D 3,700 E 2,000	S 4,000 A 3,500 B 2,800 C 2,100 D 1,500 E 1,000
	NHK Hall			
B	Concert No. 1970	The 150th Anniversary of Vaughan Williams's Birth Vaughan Williams Five Variants of <i>Dives and Lazarus</i> Mendelssohn Violin Concerto E Minor Op. 64 Vaughan Williams Symphony No. 5 D Major	Ordinary	Youth
	November 23 (Wed) 7:00pm 24 (Thu) 7:00pm	Leonard Slatkin, conductor Ray Chen, violin	S 8,900 A 7,400 B 5,800 C 4,700 D 3,700	S 4,000 A 3,500 B 2,800 C 2,100 D 1,500
	Suntory Hall			
C	Concert No. 1969	Copland <i>Appalachian Spring</i> , ballet (complete) Copland <i>Rodeo</i> , ballet (complete)	Ordinary	Youth
	November 18 (Fri) 7:30pm 19 (Sat) 2:00pm	Leonard Slatkin, conductor	S 7,400 A 6,500 B 5,200 C 4,200 D 3,200 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800
	NHK Hall			

A NHK Hall
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

B Suntory Hall
Wed. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

C NHK Hall
Fri. 7:30pm (doors open at 6:30pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2022
12

A Concert No. 1971
December
3 (Sat) 6:00pm
4 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Wagner *Wesendonck Lieder*
Bruckner Symphony No. 2 C Minor (First Version / 1872)

Fabio Luisi, conductor
Mihoko Fujimura, mezzo soprano

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800
E 2,800	E 1,400

B Concert No. 1973
December
14 (Wed) 7:00pm
15 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

Glinka *Ruslan and Lyudmila*, opera – Overture
Rakhmaninov Piano Concerto No. 2 C Minor Op. 18
Dvořák Symphony No. 9 E Minor Op. 95, *From the New World*

Fabio Luisi, conductor
Hisako Kawamura, piano

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800

C Concert No. 1972
December
9 (Fri) 7:30pm
10 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Mozart Symphony No. 36 C Major K. 425, *Linz*
Mendelssohn Symphony No. 3 A Minor Op. 56, *Scottish*

Fabio Luisi, conductor

Ordinary	Youth
S 7,400	S 3,500
A 6,500	A 3,000
B 5,200	B 2,400
C 4,200	C 1,900
D 3,200	D 1,400
E 1,800	E 800

2023
01

A Concert No. 1974
January
14 (Sat) 6:00pm
15 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Brahms Piano Concerto No. 2 B-flat Major Op. 83
Beethoven Symphony No. 4 B-flat Major Op. 60

Tugan Sokhiev, conductor
Haochen Zhang, piano

Ordinary	Youth
S 8,900	S 4,000
A 7,400	A 3,500
B 5,800	B 2,800
C 4,700	C 2,100
D 3,700	D 1,500
E 2,000	E 1,000

B Concert No. 1976
January
25 (Wed) 7:00pm
26 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

Bartók Viola Concerto (Serly version)
Ravel *Daphnis et Chloé*, suite Nos. 1 & 2
Debussy *La mer*, three symphonic sketches

Tugan Sokhiev, conductor
Amihai Grosz, viola

Ordinary	Youth
S 8,900	S 4,000
A 7,400	A 3,500
B 5,800	B 2,800
C 4,700	C 2,100
D 3,700	D 1,500

C Concert No. 1975
January
20 (Fri) 7:30pm
21 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Rakhmaninov *The Rock*, fantasy, Op. 7
Tchaikovsky Symphony No. 1 G Minor Op. 13, *Winter Dreams*

Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 7,400	S 3,500
A 6,500	A 3,000
B 5,200	B 2,400
C 4,200	C 1,900
D 3,200	D 1,400
E 1,600	E 800

2023
02

A Concert No. 1977
February
4 (Sat) 6:00pm
5 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Hisatada Otaka Cello Concerto A Minor Op. 20
Panufnik *Katyrí Epitaph*
Lutosławski Concerto for Orchestra

Tadaaki Otaka, conductor
Dai Miyata, cello

Ordinary	Youth
S 8,900	S 4,000
A 7,400	A 3,500
B 5,800	B 2,800
C 4,700	C 2,100
D 3,700	D 1,500
E 2,000	E 1,000

B Concert No. 1979
February
15 (Wed) 7:00pm
16 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

Dvořák *Hussite Overture*, Op. 67
Szymanowski Symphony No. 4 Op. 60, *Symphonie concertante**
Brahms Symphony No. 4 E Minor Op. 98

Jakub Hruša, conductor **Piotr Anderszewski**, piano*
Sun. 19 February The Subscription Concert Series in Aichi Prefectural Art Theater

Ordinary	Youth
S 8,900	S 4,000
A 7,400	A 3,500
B 5,800	B 2,800
C 4,700	C 2,100
D 3,700	D 1,500

C Concert No. 1978
February
10 (Fri) 7:30pm
11 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Bernstein Symphonic Dances from *West Side Story*
Rakhmaninov Symphonic Dances Op. 45

Jakub Hruša, conductor

Ordinary	Youth
S 7,400	S 3,500
A 6,500	A 3,000
B 5,200	B 2,400
C 4,200	C 1,900
D 3,200	D 1,400
E 1,600	E 800

2023
04

A	Concert No. 1980	R. Strauss Symphonic Fragments from <i>Josephs Legende</i> R. Strauss <i>An Alpine Symphony</i> Op. 64	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800 E 2,800 E 1,400
	April 15 (Sat) 6:00pm 16 (Sun) 2:00pm	Paavo Järvi, conductor	
B	Concert No. 1982	Sibelius Symphony No. 4 A Minor Op. 63 Rakhmaninov Rhapsody on a Theme of Paganini Op. 43* Tchaikovsky <i>Francesca da Rimini</i> , Symphonic fantasy after Dante, Op. 32	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
	April 26 (Wed) 7:00pm 27 (Thu) 7:00pm	Paavo Järvi, conductor Marie-Ange Nguci, piano*	
C	Concert No. 1981	Roussel Sinfonietta for String Orchestra Op. 52 Poulenc Sinfonietta Ibert Divertissement for Chamber Orchestra	Ordinary Youth S 7,400 S 3,500 A 6,500 A 3,000 B 5,200 B 2,400 C 4,200 C 1,900 D 3,200 D 1,400 E 1,600 E 800
	April 21 (Fri) 7:30pm 22 (Sat) 2:00pm	Paavo Järvi, conductor	

2023
05

A	Concert No. 1983	Rakhmaninov Songs Op. 34 – <i>The Raising of Lazarus</i> (arr. Shimono), <i>Vocalise</i> Gubaidulina <i>Offertorium</i> * Dvořák Symphony No. 7 D Minor Op. 70	Ordinary Youth S 8,900 S 4,000 A 7,400 A 3,500 B 5,800 B 2,800 C 4,700 C 2,100 D 3,700 D 1,500 E 2,000 E 1,000
	May 13 (Sat) 6:00pm 14 (Sun) 2:00pm	Tatsuya Shimono, conductor Baiba Skride, violin*	
B	Concert No. 1985	Haydn Symphony No. 82 C Major Hob. I-82, <i>The Bear</i> Mozart Horn Concerto No. 3 E-flat Major K. 447 Beethoven Symphony No. 6 F Major Op. 68, <i>Pastoral</i>	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
	May 24 (Wed) 7:00pm 25 (Thu) 7:00pm	Fabio Luisi, conductor Nobuaki Fukukawa, horn	
C	Concert No. 1984	Saint-Saëns Piano Concerto No. 5 F Major Op. 103, <i>The Egyptian</i> Franck Symphony D Minor	Ordinary Youth S 7,400 S 3,500 A 6,500 A 3,000 B 5,200 B 2,400 C 4,200 C 1,900 D 3,200 D 1,400 E 1,600 E 800
	May 19 (Fri) 7:30pm 20 (Sat) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor Pascal Rogé, piano	

2023
06

A	Concert No. 1986	Prokofiev <i>The Love for Three Oranges</i> Op. 33bis, symphonic suite Prokofiev Piano Concerto No. 2 G Minor Op. 16 Casella Symphonic Fragments from <i>La donna serpente</i> [Japan Première]	Ordinary Youth S 8,900 S 4,000 A 7,400 A 3,500 B 5,800 B 2,800 C 4,700 C 2,100 D 3,700 D 1,500 E 2,000 E 1,000
	June 10 (Sat) 6:00pm 11 (Sun) 2:00pm	Gianandrea Noseda, conductor Behzod Abduraimov, piano* *Changed from initially scheduled.	
B	Concert No. 1988	Bach / Respighi <i>Three Chorales</i> Respighi <i>Concerto gregoriano</i> * Rakhmaninov Symphony No. 1 D Minor Op. 13	Ordinary Youth S 8,900 S 4,000 A 7,400 A 3,500 B 5,800 B 2,800 C 4,700 C 2,100 D 3,700 D 1,500
	June 21 (Wed) 7:00pm 22 (Thu) 7:00pm	Gianandrea Noseda, conductor Sayaka Shoji, violin*	
C	Concert No. 1987	Shostakovich Symphony No. 8 C Minor Op. 65	Ordinary Youth S 7,400 S 3,500 A 6,500 A 3,000 B 5,200 B 2,400 C 4,200 C 1,900 D 3,200 D 1,400 E 1,600 E 800
	June 16 (Fri) 7:30pm 17 (Sat) 2:00pm	Gianandrea Noseda, conductor	

(consumption tax included)

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

ともに創る未来へ。-Challenge SEITOKU-

かけがえのない学生時代、思いきり成長したい。

培った力を、誰かの幸せのために社会で役立てたい。

その意欲を、変化が加速する新時代に活躍する力へ。

自由で、多様で、限らない、学びの世界で学問しよう。

いまの自分を超越する挑戦で、新しい価値を創る力を。

「新しい価値を創造する」学際的なプログラム

Field Linkage (フィールドリンケージ)

学部・学科を超えた学際的な学びや、社会との連携によるプログラムが始動。多面的・多角的な視点や問題解決能力を養い、新たな価値を創造する力を育みます。

新時代に生きるリーダーシップを備え、新しい価値を創造し提案できる女性へ

Business Field Linkage (ビジネスフィールドリンケージ)

高度な専門性を実社会で活かすために、ビジネスの最前線やDX・AIの活用を実践的に学ぶプログラムが本格始動。先見的な視点とスキル、協働的リーダーシップを発揮し、課題解決へと導く、新時代の女性リーダーを育成します。

新しい時代に挑戦する「教育学部」がスタート!

新時代を生きる人を育てる 女性総合大学

実就職率
全国女子大学

1位

の教育力

(97.4% 2022年卒業生)
※卒業生100名以上の女子大実就職率
2022年大学通信調べ



SEITOKU

自立するチカラをはぐくむ女性総合大学。

聖徳大学

聖徳大学短期大学部

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550 TEL.047-365-1111(大代表)
<https://www.seitoku-u.ac.jp/>

聖徳大学
音楽学部 (女子)

聖徳大学大学院
音楽文化研究科
[博士前期・後期課程] (共学)

聖徳大学大学院 聖徳大学教職大学院 聖徳大学 聖徳大学短期大学部 聖徳大学幼児教育専門学校
光英 VERITAS 高等学校 聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校 光英 VERITAS 中学校
聖徳大学附属取手聖徳女子中学校 聖徳大学附属小学校 聖徳大学三田幼稚園 聖徳大学八王子幼稚園
聖徳大学多摩幼稚園 聖徳大学附属幼稚園 聖徳大学附属第二幼稚園 聖徳大学附属成田幼稚園
聖徳大学附属浦安幼稚園 聖徳大学オープン・アカデミー (SOA)

NHK 音楽祭

MUSIC FESTIVAL

～名曲と出会う場所～

2022

MEET the CLASSICS

特別公演

スペインの俊英がN響と挑む、マーラー絶頂期の傑作。
豊かな色彩と繊細なオーケストレーションが光る
ラヴェルも必聴

絶大な人気を誇る「ドラゴンクエスト」と
ブラームスの交響曲——
都響ならではのコントラストに、メルクルが挑む！



© Jean-Baptiste Violot



© Dario Acosta



写真提供：東京都交響楽団



写真提供：NHK 交響楽団

東京都交響楽団

10月19日(水) 19:00開演

指揮：準・メルクル

すぎやまこういち：交響組曲「ドラゴンクエスト」

スペシャルセレクション

ロトのテーマ(III) 過ぎ去りし時を求めて(XI) ほか

ブラームス：交響曲第1番 ハ短調 作品68

NHK交響楽団

10月31日(月) 19:00開演

指揮：パブロ・エラス・カサド

ラヴェル：組曲「クーランの墓」

マーラー：交響曲第5番 嬰ハ短調

共催：NHK交響楽団／協賛：岩谷産業

NHKホール

好評販売中

入場料 (消費税込)

公演	公演日	開演	終演	SS席	S席	A席	B席	C席	D席	U-25席
東京都交響楽団	10/19(水)	19:00	21:00	8,000	7,000	6,000	5,000	4,000	3,000	1,500
NHK交響楽団	10/31(月)	19:00	21:00	13,000	11,000	9,000	7,000	5,000	3,000	1,500

●お問い合わせ

ハローダイヤル TEL.050-5541-8600 / 9:00～20:00(無休)

NHKホームページ <http://www.nhk.or.jp/event/>

NHKプロモーション音楽祭係

TEL.03-3468-7736 (11:00～17:00 平日)



主催：NHK、NHKプロモーション

協賛：Canon キヤノンマーケティングジャパン TOKAIグループ MIZUHO みずほ銀行



YOKOHAMA
OTSUMATSURI
横浜音祭り

横浜みなとみらいホールリニューアル記念事業

井上道義 指揮

NHK交響楽団

藤木大地

(カウンターテナー)

©hiromasa

2022年 **11/3** (木・祝)

17:00開演(16:20開場)

横浜みなとみらいホール 大ホール



©原本史昭

©Yuniko Takagi

全席指定

S席8,500円 / A席6,500円 / B席 4,500円

発売中

学生・65歳以上の方 / 障がい者手帳等をお持ちの方*は
各席種5%割引

(* = 横浜みなとみらいホール仮事務所チケットセンター電話のみ取扱い)

チケット取扱いのお問合せ

◎チケットセンターWEB <http://minatomirai.pia.jp/>

◎横浜みなとみらいホール仮事務所チケットセンター 045-682-2000
(電話予約 月~木曜11:00~16:00 / 祝日・休業日を除く)

◎チケットぴあ ◎e+ (イープラス) ◎ローソンチケット

※未就学のお子さまの入場はご遠慮ください。

※車椅子でお越しの方は、事前にお電話で横浜みなとみらいホール仮事務所チケットセンターまでご連絡ください。

主催: 横浜みなとみらいホール(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団) 共催: 横浜アーツフェスティバル実行委員会

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会



©T.Tairadate

J. シュトラウスII世
ワルツ《南国のバラ》Op. 388

G. マーラー
リュッケルトの詩による5つの歌曲

C. サン＝サーンス
交響曲第3番 ハ短調 Op.78
「オルガン付き」

近藤 岳 横浜みなとみらいホール ホールオルガニスト

YOKOHAMA
MINATO MIRAI
HALL

好きなホールで、
極上のひとときを。



世界のコンサートホールをすべて手に入れることはできませんが、
その珠玉のサウンドをすべて手にすることは夢ではありません。
いつでも好きな時に、好きなホールで、極上のひとときを。
クラシック愛好家にとって、これほどの贅沢が、他にあるでしょうか。

ESOTERIC — いつかあなたが夢を叶えるために。

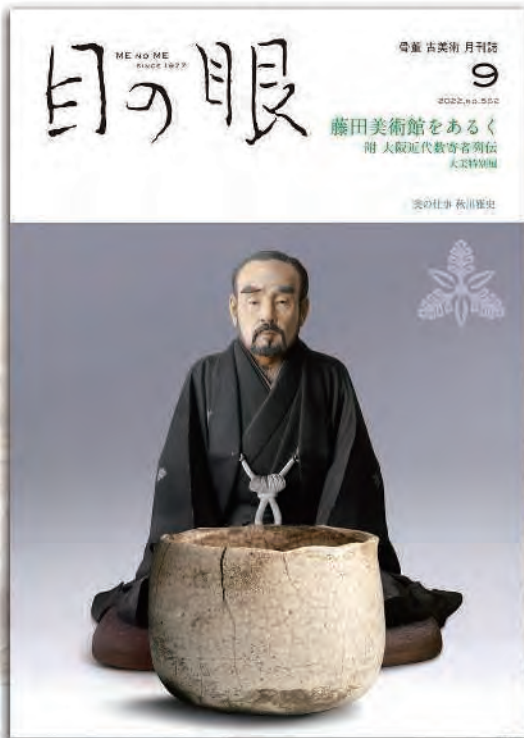


クラスAステレオパワーアンプ
S-05



ESOTERIC

モノが語る声を届ける



骨董 古美術 月刊誌「目ノ眼」

9月特集◇藤田美術館をあるく
附 大阪近代数寄者列伝

最新号WEB無料公開中
毎月15日発売 1,320円(税込)

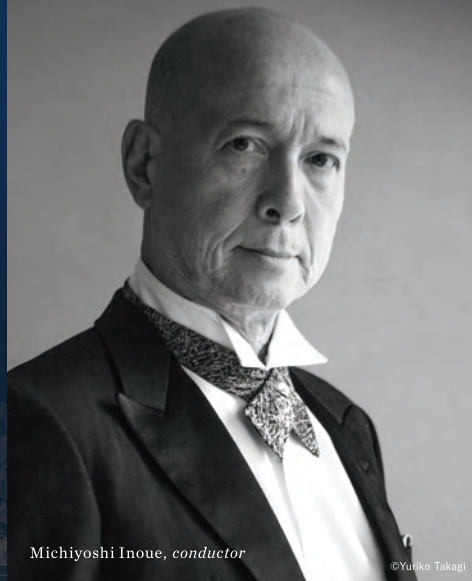


かんぽ生命 presents

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

N響 第九

Special Concert



Michiyoshi Inoue, conductor

©Yuriko Takagi

2022年12月27日(火) 7:00pm
サントリーホール

Tuesday, December 27, 2022 Suntory Hall

指揮: 井上道義

ソプラノ: クリステイーナ・ランツハマー

メゾ・ソプラノ: 藤村実穂子

テノール: ベンヤミン・ブルンス

バス: マシュー・ローズ

合唱: 新国立劇場合唱団、東京オペラシンガーズ
New National Theatre Chorus/ Tokyo Opera Singers, choruses



©Marco Baggarelli

Christina Landshamer,
soprano



©R&G Photography

Mihoko Fujimura,
mezzo soprano



©Sara Schlangen

Benjamin Bruns,
tenor



©Lena Kern

Matthew Rose,
bass

Program

ダカン/ノエル集 作品2—第10曲「グランジュとデュオ」ト長調
Daquin *Nouveau Livre de Noël* for Organ Op. 2
—X. *Grand Jeu et Duo* G Major

ラインケン/フーガ ト短調
Reincken *Fugue* G Minor

バッハ/前奏曲とフーガ ハ長調 BWV545
Bach *Prelude and Fugue* C Major BWV545

オルガン: 勝山 雅世 Masayo Katsuyama, organ

ベートーヴェン

交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

Beethoven *Symphony No. 9* D Minor Op. 125, Choral

料金(税込)	S ¥17,500	A ¥14,500	B ¥11,500	C ¥8,000
ユースチケット (25歳以下)	S ¥8,750	A ¥7,250	B ¥5,750	C ¥4,000

発売開始 10月10日(月・祝) 11:00am
N響定期会員先行発売 10月5日(水) 11:00am
[定期会員は一般料金から10%割引]

お問い合わせ: N響ガイド 03-5793-8161
(営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください)

進化するぬくもり。

主催: NHK交響楽団
特別協賛:
株式会社かんぽ生命保険



かんぽ生命

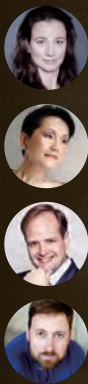
NHK交響楽団「ベートーヴェン」第9「演奏会」
ベートーヴェン／交響曲第9番ニ短調 作品125「合唱つき」

Beethoven Symphony
No. 9 D Minor Op.125, Choral
Michiyoshi Inoue, conductor
Christina Landshamer, soprano
Mihoko Fujimura, mezzo soprano
Benjamin Bruns, tenor
Matthew Rose, bass
New National Theatre Chorus, chorus
Tokyo Opera Singers, chorus

主催：NHK／NHK交響楽団
主催(22日)：NHK／NHK厚生文化事業団
協賛：みずほ証券株式会社／はごろもアース株式会社／
JPモルガンアセット・マネジメント株式会社 株式会社明電舎

第9響

Beethoven
9th Symphony
Concert



指揮◎井上道義

ソプラノ◎クリスティーナランツハマー

メゾソプラノ◎藤村実穂子

テノール◎ベンヤミンブルンス

バス◎マシューローズ

合唱◎新国立劇場合唱団 東京オペラシンガーズ



NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

2022年

12/21 水 7:00pm
12/22 木 7:00pm*
12/24 土 2:00pm
12/25 日 2:00pm

NHKホール

*12月22日はNHK厚生文化事業団主催のチャリティコンサートです

発売開始：10月10日(月祝) 11:00am

N響定期会員先行発売(22日公演をのぞく)：10月5日(水) 11:00am

[定期会員は一般料金から10%割引、22日公演をのぞく]

料金(税込)	
一般	ユースチケット(25歳以下)
S ¥15,000	S ¥7,500
A ¥12,000	A ¥6,000
B ¥9,000	B ¥4,500
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥4,500	D ¥2,250

前売所

- ・WEBチケットN響 <https://ticket.nhkso.or.jp/>
- ・N響ガイド 03-5793-8161
- ・チケットぴあ pia.jp/t/nhkso/
- ・e+ (イープラス) eplus.jp/nhkso/
- ・ローソンチケット l-tike.com/nhkso/

※ ユースチケットはN響ガイドにお電話でお申し込みください。
感染症予防対策のため、事前に年齢確認のための登録手続きが必要になります(N響ホームページをご覧ください)
※ 定期会員割引(先行発売)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります
※ 車いす席をご希望の方は、N響ガイド(22日公演のみNHK厚生文化事業団)へお問い合わせください

お問い合わせ

- ・N響ガイド：03-5793-8161(営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください)
- ・NHK厚生文化事業団：03-3476-5955(22日公演のみ、平日10:00am～6:00pm)

脱炭素の道へ。 水素とLPガスが加速する。



2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

イワタニはLPガス・**Maruigas**の全国330万世帯以上の販売ネットワークを活かし、脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。

さらに、環境への負荷を減らすために、水素やアンモニアを混合した低炭素なLPガスの開発をはじめ、廃プラスチックやバイオガス由来の水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。

私たちは、水素とLPガスで確かな答えを持つ

クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

水素&LPガスシェアNo.1[※]

※国内における販売シェア(ただし、水素はオンサイト・パイピングを除く。2022年5月現在、自社調べ)

Iwatani
岩谷産業株式会社